前號發賣禁止

無產階級戰鬪雜誌

進め

第二年◆十月◆第十號

進め社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼内容▲

仇打ち……岩淳岩

時論

□大衆意識の移動……青野季吉
□行財政整理ご政治能力の限界……牧野一郎
□無産階級から觀た日露修交問題……高橋亀吉
□的外れの政府勤倹奬勵……進め同人
戦爭ごつこ・失業者をごうする……
海老江便り……

農村問題・勞働問題

□國民三大義務の改造……湯原彦三
□農村荒廢に就て青年に與ふ……前田辰之助
□××市電××會の諸兄に與ふ……大路龍一郎
□不生産的勞働……野田律太
□海上勞働問題の將來ご無産階級運動……海野韻平

髑髏は語る(詩)……中濱鐵

雑誌漫評(一)……原蔭

批判

□故國の同志の諸論文を讀みて……山田有美太
□マルクス國家論に就いて……石川準十郎
□討閥に就て所謂第三者に問ふ……藤江俊夫

地方通信……

研究

□資本主義より共産主義の過渡時代 ニコライ レーニン……鈴木茂三郎
□フランス社會黨の回顧……佐藤光敏
□國家意識ご階級意識……久保芳朗
□議會行動に於けるマルクス主義……春田正
□近世社會主義史【三】……
編輯室……

「仇打ち」

◇

昔、仇打ちこいふ事があつた親を殺された倅さか、主君を殺された、その家來こかが、加害者を殺して、死んだ、親なり主君なりの恨みを晴すこいふ行爲で、立派な事だこされた。仇打ちの願書を出したり、許可されたりした所から考へるこ場合によつては、公認の下に、堂々こ恨みを晴すこごが出來たものらしい。

◇

かく昔、仇打ちか許されたのは一つには、仇を打たうこする人の心持を尊重した事にも依るが、他の大きな原因は、何こいつても當時の制度では、仇を打つ人の心を滿足させるような機關が完備して居らなかつたからであらう。第一交通は不便だし三百餘の大名が、各自獨立した法律を作つてゐるので、加害者が脱藩でもして仕舞つた日には大底泣き寢入りより他仕方がない。そこで勢ひ、個人的仇打こいふこごが、許されて來ねばならなかつたのであらう。

◇

現代の「有難い世の中」では、交通は開ける、法律は統一されて、裁判所が出來て、惡い事をしたものを「公平」に裁判する。そして制裁を加へる。だから、ちよつこ見るこ、仇打なんかの必要は全く無さそうである。所が、そうも行かぬこ見ゐて、狙撃事件などこいふものが持ち上つて來る。和田久太郎君が、福田大將を○○した事件を世の中で言ふままに「大杉の仇打ち」だこしておかう。先づ、そこまではよいこして、仇打ちは昔の事だ。野蠻の行爲だ。こ批難したものが居る。殊に、自分を文明の權化かのような、お上品面をした奴等が、口をそろへて、批難してゐる。それぢや、質問するが「文明の日本」には、「野蠻な行爲」などせずこも濟むような制裁機關があるのか。例へば、大杉夫妻や無邪氣な少年を○○した加害者が、果して「仇打者」の心を滿足させるような制裁を受けてゐるか。當の加害者甘粕某が、刑務所に居るこごは知つてゐるが、その他、此の大杉殺しに關した奥底のカラクりは、一切曖昧に、もミ消されて仕舞つてゐるではないか。何も、大杉事件ばかりこ限らぬ、全てがそれだ。いやしくも事が無産階級の事だこなるこ「文明の誇りなる」その制裁機關がいつも片手落ちである。これぢや、無産者は一日だつて、安眠が出來ないぢやないか。つまり、無産者は、今日も依然こして、昔そのまゝの世界に住まされてゐるのこ少も變らない。するこ、無産者にこつては「仇打ち」こいふものは、不思議でも何でもなく正々堂々たる防衛行爲だこいふ結論になつて來はせぬか。やがてその中には床次内相あたりの大好きな「忠臣藏」のような、組織だつた仇打ちが、起らないこも限るまいまた「過激法案」の蒸かへしでもしてみるか。(岡)

告社

進め宣傳叢書の發行

進め社で、何かよいパンフレットを出したらごうかこいふ相談を、方々から持ち込まれる。私共も大いに、それは賛成だ。そこで、五月に、第一輯を出した所が、羽が生ゐて飛ぶように賣れて、たちまち、品切れこいふ始末だ。そこで、今度は、更に一段こ本の体裁をよくした、素敵に感じのいゝ衣を着て、諸君の前に現はれるここになつた。それが、新しく出來る「進め宣傳叢書」である。

◆

第一輯は、諸パンフレット「社會運動に投せんこする青年に與ふ」に大改訂を加へたもので山川均氏の「或る青年に答ふ」、同菊枝氏の「若き女性に與ふ」及び、岡陽之助氏の「慨世憂國の青年に與ふ」の三篇を納めたもの。三氏各獨特の文字で、宣傳書こしては、恐らく絶好の小冊子であらう。(定價十錢)

◆

第二輯は、福田狂二氏の「反動主義者こ語る」即ち、常に反動團体を威伏せしめつゝある著者が、彼等こ膝を交へて淳々こ社會主義の眼目を説いたもので反動團体の跳梁する今日、此の小册子の如きは、最も渇望されねばならぬもの、一であるこ信ずる。(定價十錢)

進め　第二年・第十號

大衆意識の移動

―特に地方青年に告ぐ―

（一）

社會運動の、當面の題目を、政權の階級的移動におく。これに大體、異論が無いようである。そして諸運動の、漸く此の一點に集流しようとするのが、最近の傾向であるかに見ゆる。これは、確に、我國社會運動の深化である。若し移動といふ言葉に刺戟性が乏しいといふならば、〇〇でも〇〇〇〇でも構はない。要は、國家の政治權力を、この階級が行使するかゞ問題なのである。即ち、ブルジョアの國家權力行使に對する絶對的否定に出發し、無產階級自らが、之に代らうとする要求が、目下社會運動を動かしつゝある所の基潮なのである。

（二）

併し、政權が既に確立してゐるからには、よしそれがどんなに不當なものであるにもせよ、兎も角も、それを支持するものがあるに相違ない。そして、それは現在國家權力の下に統成されて居る國民自體であるといふの他はない。更に言ふと、それは、國民の服從意識であるといふの他はない。而も今日、我國民の大部分は、無產者なのであるから言ひ換へると、ブルジョアの政權維持の御用を、忠實に勤めて居るのは、何のことはない、我々無產大衆自身であるといふ事になるのである。

斯うなると政權の階級的移動を考慮する場合、私等は、先つ、政權を支持しつゝある國民大衆の意識、そのものゝ移動といふ事を、大いに緊急な題目として考へて見なければならなくなる。

（三）

大衆の意識は、統一と方向とを得ると始めて偉力を帶びる。例へば、德川幕府の下に於ける當時の國民の意識は、その下に統一され、而してその總合された力の矛先は、一切の反幕意識に向けられてゐた。そこに、幕府執權の安泰があつた。所が、幕末革命期になると、薩長の如き諸藩が頻りに、反幕的意識を統一し、その總合力の、幕府下のそれを凌ぐに至るや、幕府の政權は、たちまち、支柱を失つて崩壞せざるを得なかつたのである。而して、これは、大衆の服從意識が、幕府の手から、反幕諸藩の手に移つたものと考へられ、假りに、之を大衆意識の階級的移動とも見られ得るであらう。

（四）

すると、問題は、何等かの方法によつて、現にブルジョアの支配下に集まり、その訓練を受けつゝある大衆の意識を、我々無產階級の旗下に移さねばならぬといふ、重大な實際問題となつて來るのである。つまり、その方法如何が、今後の我々の考慮の主題とならねばならないのだ。かの『大衆化』といふ非常に正しい標語も、論議の中心を此處におかぬと空論に墮するを免れ得ぬであらう。

さて、此の方法で、第一に考へられるのは所謂思想運動であらう。社會主義の純理論を以つて、直接、大衆の頭腦に訴へる所の方法である。併し、これはその動かし得る範圍が甚だ狹くて効果は知れたものである。多數の意識の統一を必要とし數の威力を重大視せねばならぬ此の場合は、むしろ少數の理論の徹底よりも、成るべく、移動範圍の廣かるべき方法が必要なのである。思ふに、それは、『利害』と『感情』に訴へるものではなからうか。即ちそれは、大衆共通の經濟的利害と、多數に共通の感情とに基いたる政策を掲げ、その實際政策の下に、大衆を集めるものでなければならぬ。而して此處に生ずる力をもつて、既成權力に〇〇するものこそ、我等の起さねばならぬ大衆運動である。從つて、此の運動は、これまで私等の見る如き、一地域、一民族、もしくは一產業の利害感情に終始する諸運動とは、全く、本質を異にした、別個の運動であつて、成るべく、全國的に、成るべく廣汎に涉つた利害感情を、同一政策の下に統一した所のものでなければならぬ。

（五）

所で　かういふ全國的の大衆運動に、最も可能性あるものを求めるならば、それは何といつても、現に、全國各地に起つてゐる無產青年運動があるのみではあるまいか。

私等は、常に、東京大阪の間に奔走しながら、努めて、地方の同志を訪れるのであるが、地方の思想的進步の、實に素晴らしい勢ひなのに驚くものである。而して、これ等の、地方的に盛上つた諸勢力、全國的に統一せられるゝ日を想像せざるを得ない。その統一體が、直接、政權の階級的移動を目指したる種々の國民運動の主力となつて動く日を想像せざるを得ない。それは確に、偉大なる社會的勢力である。私等は、將來、ブルジョアの既成權力を、凌ぐの力を、此の意味の大衆運動の中に見出すが故に、今や各地に熱と力とを潛めつゝ時の至るを待つに似たる青年運動に、大きな期待を有つと共に、その青年運動の中心となつて、プロレタリヤ解放運動の運命を握るべき地方の眞劍なる無名青年に特に自重を促したいのである。（岩澤岩）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時論

行財政整理と政治能力の限界

青野季吉

一、

財政、行政の整理といふことが、最近の新聞紙を賑してゐる憲政、政友、革新のそれそれの案とか、政府の案とか言つたものが、盛んに報道されてゐる。財政行政の大整理に、護憲三派が、過般の總選擧に際して、その標語の一としたものである。すなはち『國民』に約束した政綱のうちの重大なるものゝ一つである。その政綱も一つの力をなして、總選擧に所謂壓倒的多數を占め、内閣を組織した護憲三派の行政財政の整理案が、大いに世の注目を惹くのは、當然と云はなければならぬ。

國民はこの際、彼等が、どの程度までその『約束』を果すかを監視しなければならぬ。そして、彼等の果した『約束』が、どれだけ所謂國民生活の安定の資するところがあつたかを考へねばならぬ。

彼等の財政、行政の整理なるものが、名を國家の財政、行政の整理にかつて、實は行詰つた資本家階級の懐中の整理であつたりその整理によつて得た剩餘金が、失はれたる國民生活安定をして、益々危殆ならしめる方途に費消せらるゝ如きことがあれば、――而して、その兆候は既に現れてゐるが――彼等につないでゐた信を、ただちに解く可きであると共に、彼等によつて行はるゝ政治が、いく度び繰返されやうとも、違約につぐに違約をもつて酬ひらるゝ原因を調べることを怠つてはならぬ。

二、

最近數代の内閣で、その施設の方針として、行政の整理なる項目を數へなかつた内閣はないまた、政黨と云ふ政黨で、これをその政綱に加へてゐない政黨はない。あたかもかの『農村振興』が、どの内閣、どの政黨でも政策、政綱に加へられてゐるのと同樣である。今日の内閣や政黨は、國家生活上の重要な事項は、競つてその項目だけを政策や政綱に羅列する習性をもつてゐる。しかもそれは飽くまで、項目だけであり、「改革」、『整理』、『振興』と云つた普通名詞だけである。

しかし普通名詞だけでは用を爲さぬ。問題は『如何に』改革され、整理され、振興さるゝかにある。日本の國民は、内閣の組織さるゝ場合に、その内閣は何々の具體的問題を如何に、解決し、『如何』に改革し、整理し振興するかを、曾て一度も示されたことがない。また日本の國民はいかなる政黨からも、その具體的成案乃至は基礎的方針を示されたことはない。この意味に於いて日本の『國民』は、はなはだ寬容にして、お人よしの國民であると共に、爲政者や政黨員から見れば、御し易きこと猫の如き『國民』である。

しかし日本の民衆の眞に求むるものは、單に普通名詞を羅列した看板ではない。實際に解剖圖を示し、科學的分析表を附した政治的藥物である。内閣や政黨が、眞に日本の民衆の眞要求を基礎として出發せんとするならば、計量をごまかしたり、中味をとりかへたり出來る包紙だけを示さずに、豫めその政策なり、政綱なりの内容を提示して、國民の批判を求めなければならぬ。政權を握るといふことは、調査會や委員會を設けて、政策を調査させるための、準備行動ではない。豫め樹てられたる政策や政綱を、實地に、國民の承認を經て、實行することである。答案的試驗を通過して實行的試驗の階段に入つたことである。

この用意なき政治家や政黨は即ち言ひ換ふれば、何等かの方法によつて政權を握ることのみこれ汲々としてゐる政治家や政黨は、最初から民衆に不渡手形を渡す下心を有する政治家であり、政黨である。よしそれが不渡でないにしても、多大の割引を豫想して振出す手合である。

三、

それはそれとして、それならこれまでの内閣か大いに吹聽した財政行政の整理が、どれだけの成績をあげ得たか？日本の財行政整理史で吾々の記憶に新たなるものは、大正二年山本内閣の手によつて行はれた行政の整理である。それは前代の西園寺内閣以來の問題となつてゐたもので、大いに當時社會の注意を集めたものであつた。

ところでその結果を見ると、歲出額に現はれたところでは、經常費で百二十六萬圓の減少を見ただけで、總歲出の僅かに二パーセントに過ぎなかつたのである。それはそれでよいとして、行政の機能に目ざましい刷新が行はれたかと云ふにそうでもなく、いたづらに薄給、無產官吏の生活を脅威したに過ぎない結果となつて仕舞つた。

先頃の清浦内閣も財政の整理

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を標榜してゐたが、それの實行に先立つて崩壞してしまつたので、その結果を見ることは出來なかつたとは云へ、その說くところは『行政上の能率の增進』と云ふ比較的目新しい言葉に止まり、どれだけ實行性を有するものであるかは、大いに疑問とされた種類のものであつた。

そんなわけで行政、財政の整理といふ看板はまことに立派であるが、そしてその『約束』だけは立派にするが、それがいつも僞りのある看板であり、向ふから外れる約束であるといふのが、これまでの實際であつた。

この苦い經驗から推して、現在の加藤內閣の行財政整理にも、多くの信をおくことの出來ぬのは、止むを得ぬことである。いくたびも煮え湯を呑まされてゐながら、平氣でまた手を出すのは、よほどの馬鹿か、無神經でなければ出來ぬ業である。

それならばいつたい何故、本統の財政の整理や、行政の改革がやれぬのであるか。その點を考へて見なければならぬ。

四、

これまでも左樣であり、これからも同じ種類の人々がやれば左樣であらねばならぬ理由があると思ふが、財政行政の整理と云へば、いつも局課の廢合や、冗員の淘汰や、人員の差し換に止まつてゐる。せいぜいが角を切つて落すほどの軍備の縮少くらゐのものである。かう云ふことで、財政や行政の整理と云はれないのは勿論である。

これを言ひかへて見れば、行政の組織や財政の組立には、根本的に一手も觸れず、また觸れやうともせずに、枝葉の切り貼をやるのが整理であると心得てゐるのである。今日の行政の組織が、煩瑣で、重復してゐて、非科學的で、機能上の統一がなく、その意味で浪費的であるところに、整理す可き根源が橫たはつてゐる。その根源に觸れやうとしないのであるから、本統の整理が出來ぬのである。

それなら何故、それが出來ぬかと云へば、問題は更に根本的となつて、こゝに委曲を盡すわけには行かぬが、今日の行政や財政の組織上の原理が、民衆の生活の厚生福祉を主眼とした原理に立脚しないと云ふ點に、根本の理由がある。そこでこの原理に立脚して、組織替へをやり整理をやる能力のある政治的勢力が生れて來、それが政權をとるのでなければ、本當の整理や改革が行なれるものでないのは明かである。

牢獄の黎明

大和久雄

無產者よ　牢獄の黎明はきた
東雲の空に　一條二條　閃やく
彩光―おお　われわれ無產者の
血のやうに眞赤な　日の出だ。

無產者よ　牢獄の黎明はきた
資本の〇〇に　幾多の同士が埋
れ　富の土臺に下敷となつた
事實を何と見るか!!
正しい報復の時が動いてゆく―

無產者よ　牢獄の黎明はきた
共榮共存の眞赤な　大旆を押し
立ててわれわれは彼方へ―光
明の彼方へ―前進―の一路
あるのみだ―
血の握手―　人類愛の聖なる灯
よ　貴者もない　富者もない
一切が平等だ　無產者よ　牢獄
の黎明はきた。

五、

行政、財政の整理におけるその根本的の不備か、更に露骨な外觀をとつて現はれて來るのはその整理によつて得た剩餘金―行財政の整理は必ずしも多額の剩餘金をひねり出すことにあるのではないが―の行衞である。

今回の整理に於ても、濱口藏相の言を聞けばかなり多額に上る可き剩餘金の支途についてはいまだ成案がないさうである、甚だもつて心細い次第である。しかし世に傳へられたごとく、公債償還その他に振り向けらる可きは豫想するに難くない。つまり公債所有階級の懷合を整理してやる結果になる可能性があるのである。

眞に國民生活の安定を脅威してゐる勞働階級の生活の壓迫や事業費その他の整理によつて直接に生活を脅かさるゝ無產官吏階級の當面の苦痛の救濟に向つては、よし與へらるゝとしてもその極少部分でしかなからうことは、十分に想像し得る。そうして整理は、結局、その末端に於ても、單なる素人だましの加減算たるに止まらうとしてゐるのである。

更にこの行財政整理の一部をなす軍備の縮少について見ても同樣である。憲政は七師、政友は六師、革新は半減といふ。しかしそれがいかなる根據になるものかは容易に分らないのである。且つそれによつて得る多大の財的餘裕が、どこの缺陷を充たすために用ひらるゝやは、更に更に分らぬのである。軍部ではこの餘裕をもつて、新武器の設備を完成しやうと目論でゐると、新聞紙に傳へてゐる。それでは縮少でもなければ、整理でもない。國民はまるで、だましこつこの遊戯を見せられてゐるやうなものである。

私はさきに、日本の內閣や政黨は、『如何に』を明示して、國民の支持を受けないと言つた。國民は、お人よしであると言つた。爲政家や政黨の眼には御し易きこと猫の如しと言つた。而していまこゝで、彼等がいかに御しつゝあるか、國民がいかにお人よしであるかゞ、實驗されてゐるのである。

行、財政の整理といふが如きは元來、專門家的領分の多い事柄であり、それが又、民衆の目をくらますからくりともなるのであるが、國民はこのからくりの故に、簡單にして眞實なる不滿と要求の聲を差し控てはならぬ。（終）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無產階級から觀た
日露修交問題

牧野一郎

近代工業の源動力である石炭の命數は心細い程底が見ゑて來た。石炭から石油へ――この標語は世界各國の資本家が夢にも忘れる事の出來ない惱ましい言葉となつた。其資本家の番當であり委員會をつとめる各國の政府當局者が血眼になつて餓ゑた狼の如く地球上のあらゆる油臭い地點を嗅ぎ廻つて居るのが現在の狀態である。

顧つて思ふに我國の資本家ほど結構な置位にある者は恐らく世界にあるまい。歐洲列強の鋭い目は[illegible]手を伸す事の出來ない北樺太、サガレン地方には滔々と泉の如く瀧津瀬の如く溢れゐる石油鑛が無數にある。鑛山がある。製紙原料の森林が無盡藏だ。

勇敢な吾軍隊を出して貰ひ軍艦を動かして貰ひコルチック、セミヨノフ等歷史の流れを止めて樣とした馬鹿者の尻押しをしつゝ尼港の事件の賠償占領と號してサガレン地方の油田に鑛山に三井岩崎等が數千萬の投資をした。

しかし時勢は一刻も停頓しない。浦鹽埠頭に赤旗が飜つた。勞農ソビエットが開かれる。革命軍事委員會が設置される。十億圓をシベリヤの氷原に煙として一瞬の間に日章旗は浦鹽から去つた

あゝ、その十億圓の軍隊駐屯費は何處から出たのだ、其は國庫から出た事は判つて居る。しかし誰がその巨費を蓄積したのか人の好い日本の無產階級はケロりとして居る。

浦鹽に赤旗が飜つても、天然の富源を藏する北樺太サガレンには軍艦が游泳し銃劍が物凄く光る。その蔭でその尻で、こそ／＼と利權を漁り廻る三井、岩崎等の淺猿さ、これが吾國代表の資本家である。俺達はこゝで沈思する。巨額の駐屯費を出して三井岩崎大倉等の極く少數者の利益の爲に〇〇まで出すとの方針、その制度に疑ひを起さゞるを得ないのだ。瑞穗の內地では失業者が蒼い顏をして居る

俺達無產階級の敵ながらも雄大なのは米國の資本家である「政治に國境あれど事業に國境なし」と絶叫しつゝ單身モスコーへ乘込んでサガレン地方の砂金採取、石油採掘權の讓り受けの契約をして來たシンクレア石油會社の副社長のその主義に勇敢なるを痛快に思ふ。サーベルと砲彈の尻に食附いてこそ／＼と蠢く日本の資本家と大分違ふ。

これで益々馬鹿を見るのは日本の無產階級だ。つまり米國の資本家の番犬までつとめる譯になる。その駐屯軍隊は誰によつて構成されて居るか。皆俺達貧乏人の兄弟ではないか。日本の無產者は自國の資本家では足らず外の資本家にまでその忠勤ぶりを發揮して居る。結構な事にも程があるぞ。

大連會議

大正十年八月から歩を進めて十一年四月十五日に綺麗に決裂した九ケ月間に亘る大交渉であつた。陣容左の如く赤と白の大接戰であつた。

露代表　ペトロフ（チタ政府の首腦者）

日代表　松島肇（西伯利亞派遣軍政務部長）

不調に終つた論點

1 シベリヤ撤兵（露の主張）

2 シベリヤ開放の基本協定を迫る（日の主張）

東京會議

變態急進ブルの後藤子がヨッフエを招待して天下の耳目を聳動せしめた事件である。

露代表　ヨッフエ

日代表　川上俊彥　約二ケ月間

主張

露――日軍駐屯し受けた損害と尼港事件の相殺論但し外交文書で尼港問題は謝罪する事利權は日露の合辨とする事

日――尼港問題は文書の謝罪でよろし進んで承認もする但しサガレンの利權は獨占的にする事。

決裂の要點及時日十二年七月初旬

サガレンと北樺太の利權獨占論で日本讓らず破る。契約期間五十五ケ年間

北京會議

大正十二年八月初旬より

露代表　カラハン

日代表　芳澤公使

主張

露――利權の合辨經營說

日――獨占說（石油森林漁業三種）

社會主義に立脚した露國と資本主義最期の段階に近づきつゝある日本のブルとの相撲である結局は共產主義宣傳禁止問題承認問題、尼港問題などは眼中になく只サガレンの利權のみに――特に石油採掘權の主張は日本資本家の死者狂ひになる處である。

北京會議でもカラハン氏の主張にサガレン樺太の利權は日本に渡しても異議は無い。しかしその經營はロシアの內國法によると云つて居る。その內國法とは、頗る共產主義的で勞働者が素晴らしく巾を利かす事になるのでこの法律を受けて日本の資本家が八角の目をむいて經營しても彼等が目的とする利潤が揚がらない事になつて居る。

（五頁へ續く）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

的外れの政府の勤儉奬勵

高橋龜吉

一

内務省と地方府縣とが主となり、加藤首相が音頭取りで、大々的に國民に勤儉貯蓄を奬勵するそうだ。如何にもそれはその限り惡いことではない。所で、政府の勤儉貯蓄奬勵の内容なるものを見るに――新聞紙の傳ふる所によつて――政府當局は、各個人の愼重心に訴へることによつて、勤儉奬勵の所期の目的が達せられる如く考へてゐるらしい。

云ふ迄もないが、政府が今更の如く、玆に勤儉奬勵を叫び出したわけは、今日の日本は全體として見れば、其の國力以上の生活をしてゐる。このまゝで續いては一國は借金が重なるばかりでは支那や朝鮮の如く遂には貧乏國にならざるを得ない、と云ふことがいよ〳〵はつきりして來たからである。言葉を換へて云へば 政府の勤儉奬勵とは、我が國力以上の生活を廢止さすことを目的とするものである。果してさうなら、已述の如き政府の所謂勤儉奬勵なるものは、如何にもよく資本家らしい賢さと無智とを表明するものと云つてよい。

二

そも〳〵、奢侈だ贅澤だと云ふことは、收入に不公平があつて、或者は日々セツセと働いても二圓しかとれない時、或者は寢てゐて數百圓も入ることに根因がある。だから奢侈や贅澤を廢止さす最良の方法は、不公平なる收入源をなくさすことにあるのであるが、併し今はそれ迄根本的な問題に觸れないでおく。暫く今日の資本主義經濟の上に立つて勤儉奬勵を考へて見る。先づ第一に國民が現に國力以上の生活をしてゐると云ふことは人々の奢侈心以外に必ずやさうした贅澤の生活を許す經濟的基礎があるからに違ひない。而して、私はその我國力以上の生活をなす經濟的基礎を政府自身の經濟政策の中に見出すのだ。

例へば、某々特種銀行が損をしてゐることは公然のことであり、現に政府はその救濟のために數千萬圓を貸與してゐるにも拘はらず、卽ち利益を配當する實力のないにも拘らず、政府は資本家を保護するために年六七分の配當を公許してゐる。同じ意味に於て日本銀行や政府が助けねば一文も配當が出來ない會社や銀行を助けて配當をさしてゐる。實際には損をしてゐるにも拘らず表面を胡塗して、所謂蛸配當や事業の濫費をやつてゐる會社を平氣で看過してゐる。而してこれ等の配當が――實は配當する力はないのに――有產階級の手に入つて玆に國力以上に贅澤の經濟基礎が始めて成立するのであるから、若し政府が眞に一國に勤儉を奬勵しようとするならば勤儉しようにもこの上勤儉する餘地のない勞働者や月給取に對して勤儉を奬勵するよりも、政府自身の資本家保護の政策を改め、背任罪を犯してゐる重役どもを片つぱしから嚴重に所罰して奢侈の本源である眞の收益力のない會社や銀行の配當を中止せしむべきだ。

然るに肝心要のさうした方面には一寸も手をつけずに勞働者や月給取階級にのみ、勤儉奬勵を眞面目にやり得る政府の賢しさと世智とに驚かざるを得ぬ。

三

更に、今日の資本主義經濟の下に於ては、如何に働かうと思つても、資本家が工場を動かして吳れなくては働けないのだ。働かう〳〵と一生懸命になつても、職がなくて失業に苦しむ制度だ。働かうと思へば働けたのは、昔の如く、われ〳〵がめい〳〵の職業の主人公であつた時の昔噺である。にも抱らず、如何にも今日の無產階級が、今尚ほ昔の如くその職業の主人公であるかの如く、之に向つて勤勉なれ〳〵と宣傳すると云ふことだ。如何に政府當局者が、今日の經濟生活に無智であり無關心であるかを想見して餘りある。若し、今日、われ〳〵無產階級をよく働かさうと思へば、資本家に利益をさへやつたらよい。われ〳〵が如何に働かうと思つても、資本家は利益がなくては われ〳〵を見殺しにしても働かしては吳れないのだ。資本主義經濟の續く限りそれが赤裸々の事實だ。われ〳〵無產階級は常に大切な命を縮めても働いてゐるのに資本家は儲からなくては決して働かないのだ。

(四頁よりの續き)

利益の無い處に資本家は一足も一擧手に動かさないのだ。そこで彼等は駐屯軍隊の威力で强よ押で支那の如く治外法權を求めて居るのだ。

石油は泉の如く流れてゐる。資本家の惱みも亦憐れなる哉。石油から石油へ――現在の交渉問題は石油で盡きるのである。吾等はよく監視せねばならぬ。

× × × ×

從來の外交問題は、同一政治原理卽ち○○政治に立てる國と國との外交であつた。然るに、日露兩國のそれは、資本主義國と無產者(搾取廢止を主義とせる)國家の外交問題である以上私等無產者の注視題目は、『國家』を離れて『階級』若くは、『主義』の上に置かれるのが當然の事でなければならぬ

(終り)

街頭語（同人）

戰爭ゴッコ

米國が九月十二日「國防デー」をやつた。卽ち全米の「總同員」を決したのだ。彼等の誤謬によると「平和」は武裝なくして保てないそうだ。それを日本の軍國主義者、國家主義者、國防論者が聞いたらさぞ鬼の首でも獲つた樣に喜ぶに違ひない。が而し、それが事實は歴史が證明してゐるから始末が惡い。「人類の歴史は戰爭の歴史だ」戰爭は武器の存在を豫想せずしては不可能事だ。「人殺し」の武器を敵に示して「これは平和の象徵だ」と云つたつて誰が眞個にするものか。全世界は又もや殘虐なる戰爭の脅威を受んとしてゐる。

支那第四革命

戰爭と云へば、支那で又もや早速やつてゐる樣だ。相變らず大陸的な野放圖な呑氣な戰爭をお眼にかけてゐる。傘をさして戰爭するなんかは一寸此の世の戰爭と思へない圖だ。支那は飽く迄支那だ。而し支那を此儘にいしなしてはならない今次の戰爭は愈々浙江兩軍の戰ひより奉直の大決戰となつた。支那第四革命とでも名附くべきか。孫文も愈々北伐宣言を發表して續々北伐軍を北京目蒐けて行進しつゝある。何となく羨ましい氣がする。まあしつかりやつて吳れ。

「國難」と「パン難」

一息、排米問題で騒いだ我が國も夏の蠅がなくなつて行く樣にハイの事も云はなくなつて了つた。旗泥棒の赤化防止團員某が一寸派手な阿呆事をやつただけで、別に事無く止んで了つた。而し未だ〱それによつて反動思想を鼓吹してゐるから油斷はならぬ。それは「國難」だ。近頃「國難」「國難」の聲が全日本を蔽ふてゐる。一體何を「國難」だと云つてゐるのか。明日の飯も食へない人間に取つては全く夢の樣な話だ。お・・・!「パン難」「パン難」の聲が全世界を蔽ふてゐる事を「國難」論者は判らないのか。あの此處な喰ひ潰し奴が。

農村疲弊と○難

四十年目の大旱魃が今年の日本を襲つた。小作人對地主間の鬪爭は農村荒廢と共に漸次熾烈になつて來つゝある。米粒は追々と日本から去つて行く樣な氣がする。資本主義の黑手は山奧にまで侵入して行く。旱魃は此の時如何なる問題を提出したか。一人の利益の爲に萬人を餓死さす事は人類の最大罪惡だ。今年は凶作である事は火を睹るよりも歴だ。「國難」よりも「穀難」だ。（光敏）

失業者を如何する

失業者の數が日々に增加して行く。勞働問題の中心題目である賃金値上とか、勞働時間短縮等は、既に職を得てからの要求なのであるが、それよりも今一層ヒドイのは、失業者の生活だ。食わないから働かうとする。すると、働く仕事がない。雇主が使つて吳れぬ。これでは全く、搾取どころの話ではない。その「搾取」さわもして貰わないのだ。「幾らでも搾れ。幾らでもコキ使へ。死ぬよりは增しだ」これが、失業者の要求なのだ。

併し、此の要求は、單に悲痛な叫びを擧げて、それで止まるならば問題ぢやないが、それは當然、一つの大きな運動と化さねばならぬものだ。大きな運動と化すことは、大きな力を、失業者が自身で得ることだ。此の力を以つて、食はせない奴、働かうにも働かせない奴に向つて肉迫する。失業者が、職を得る途はこれより他には斷じてない。

勞働紹介所といふのが散在してゐる。いかゞわしいのも有るが心から失業者救濟に努力してゐるのも見受けられる。

最近、勞働紹介所の談によると、雇主がだん〱減つて、働く口が、日增に無くなつて行くといふ。由々しき問題だと思ふ。「京橋勞働紹介所の如き雜用、建築、土工等比較的需要の多い方で、今月一日の如き集合者四百人に對しそれでも三百二十五人は仕事にありついて居るが、それが去る七日には集合者三百八十人に對し僅か百八十人しか捌けなかつた、今宮勞働紹介所の如きは更に甚だしく本月一日の集合者百五十人に對して僅かに二十二人しか仕事が見つかつて居ない、築港勞働紹介所で取扱ふ沖仲仕の需要はこれ迄一日平均五六百人の仲仕が押し寄せたものだが、近頃は仕事がサッパリないので寄りつくものも少くなつて今月一日は百人、七日は百八十人の集合者を見ただけであるが、しかもその内で仕事のあつたのは一日に七十一人、七日に七十五人しかない、石炭仲仕を主として斡旋して居る安治川勞働紹介所は一つは出來上つて間もないためでもあるが、これも需要は殆どなく一日の集合者八十人に對し二十八人がヤット仕事にありついて居る。」

さて、失業者の增加は、言ふ迄もなく資本主と我經濟の行詰りの生む必然の結果であつて、制度の立直しをやらぬことには何とも仕方のない現象だ。制度の缺陷から來る現象は、制度の造り代わりに依つて、その現象を消滅せしむるより方法はない筈だ。今日の救濟策として、紹介所等の大活躍を望むは勿論なれど、同時に、失業者を永久に救濟すべき策としての新しい運動を、社會運動の表面に持ち出すべきではあるまいか。（山田生）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

海老江便り

『過法』破るべし

■〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇事件は正に、流星光底長蛇を逸したるの觀あり。殘念といはば大いに殘念なるべし。然れどもその『空砲一發』眠れる社會運動に如意棒の一喝を喰はしたる点に於いては、亦大効無からずとせず。〇〇〇〇〇〇〇〇いささか微笑するに價せむか。

■三度、過激法案、議事に上らんとす。〇〇を志す者、素より投獄、斷頭は覺悟の前也。だが併し、眞理を抑壓するに〇〇の〇〇を以つてするの暴擧は之を斷じて默許すべからず。國家は國民大衆のもの也。何ぞ獨り素町人ブルジョアの徒の壟斷に委し得る者ぞ。『過法』破るべし。

（福田）

□ 常識の轉換

■デモクラチックの夏は過ぎて總てに凋落の秋は訪れて來た、そうした自然の凋落が見舞ふと同時に不自然に（所謂プロ階級には）一層苦しい秋が訪れて來た。

然し太陽は何時も赫々として東の山の端から昇り西の海に落ちて行く事には變りはない。

■世人はこれを指して自然の成り往きだと云ふ、夏から秋へ、秋から冬へ、冬から春へ、そして又夏へと移り變り往く自然の運行、そして生物が何時も同じやうに惠まれてゐる陽光、それには變化はない筈だ、成程それには變化はない、だが吾々にはそれを通り越した所謂不自然な大きな錯到が見舞ふのだから全く人間として生きてゐるやうな氣持になれないのだ。

■明る味は何處の果まで行つても明る味であり、暗黑も又何處まで行つても暗であるのが自然であり當然であると思ふが、現在ではそれが完全になくされて總てが、金力と一部の權力で自由に明るくされたり、暗にされたりしてゐるのだ、と云へば君達は解り切つた泣言を事新しさうに言ふなと言ふだらう。

■だが俺はそう言はずに居られないのだ、何故なれば、それが餘りに最もらしき常識かのやうに自分の立場が何うであらうとそんな事は一向におかまいなしに行はれ容認されてゐるからだ少く共吾々階級戰の陣頭に立つて闘つてゐると云ふ事の意義は先ず之を打破る事に依つて意義をなすものである事を君達に訴へたい。

■今それを事改めて言ふならば先ず吾々は現在の常識を完全に踏み破らなければならない。在り來つた所謂道德、その道德を基重として作り上げられてゐる常識、それは取も直さず奴等ブル階級の常識である。

■この常識それ自体の保持して居る役目それは云ふ迄でもなく吾々無產階級をして徹底的に無產階級として社會のどん底に呻吟さす可くのブルの常識であるだからその一向有難くもないブル階級の常識を踏破りその下に潛在する迄の眞の人類としての常識を見出し、而して吾々の常識を創造せなければならない。

■そうする事に依つて始めて吾々無產階級の解放が期せられ、眞の人類としての生活が吾々の日常に實現するのである。

常識の轉換、生活用式の轉換行爲の錯到。それが〇〇だ。

（龍一郎）

□ 和歌の浦から

『進め社』の同志！紀州は僕がずつと前から憧れてゐた國です想像よりも氣持のいゝ所です。和歌の浦は、日和には、まるで古畫の廣重の海の色です。海岸に、進め支局があります。むしろ、テロリスチックな、血の燃へるような純情の人逹ばかりで頗る愉快です。二回ほど座談會を同志の家で開きました。ある日は、僕等七八人で〇〇歌を高く歌ひながら和船を和歌の浦へ艚ぎ出したもんです。所が途中で、激しい雷雨が襲つて來て、ひどい目に合つた。此處の青年逹が、近く結束して、青年運動を起すそうです。〇〇の烽火は先づ紀南の地より等と威張つてゐます。家の中に座りこんでパンフレットでも書いて、社會主義大家に成らうなどといふフヤケた量見が、こういふ人々の手で社會運動から驅逐されて仕舞ふのも遠くはあるまいと思ひます『進め』も單なる興味中心の道樂に墮さぬように一生懸命努力しませう。雜誌メーカーとなる事は、少なくも、社會主義者としては恥です。今の『進め』は頂度、荒海に乘り出した船のようなものです。幾度の激浪の襲來にも堪えて行かねばならない。へコたれたらそれ切りです。無產青年の强みは『遺恨十年』と齒を喰ひしばる意地にあるんだと思ひます。其意地の上に實力を養つて行きませう。今、海は靜かで西の空は眞つ赤な夕焼けです。

（岩澤）

□ 東の空よ

■大阪へ來て、未だ間もないのに大阪の銅臭味にすつかり、參らされてしまつた。街路樹の梧葉が、秋風に散らされやうと、新淀の水が月光に冷たく光らうと、何のおかまいもなく、大阪人の銅臭味に變りはない。

■つくづく東京の空がなつかしくなる。しかし東京でさへも、『和田久事件』で一波紋、だが古沼はもとの靜寂にかへり、フエビアン協會の講演會位でお茶を濁してゐるのでは飽き足らぬ。社會的の大地震は何時來るか？

（原）

□ 街頭に親む

■秋風だ。俺逹も、緊張せざるを得ない。何時までも、鐵アレーでもあるまい、といふんで、今度は、盛んな讀書だ。討論だ階下の六疊が、即ち討論場となる。激論高潮に達して、時々、ひつそりとした二階の編輯室から『靜かにしろ！』なんて聲が落下する。

■宣傳部の連中が、長旗をかついで每夜、街頭にくり出す。これは演說の練習である相な。『燈火親し』めない俺逹は、かくて秋夜を『街頭に親しむ』のだ。

（斜木生）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民問題
勞働問題

國民三大義務の改造

湯原彦三

國民三大義務とは何ぞや曰く兵役の義務曰く納税の義務、曰く教育の義務なりと我等は敢て此の三大義務に反對せんが爲に反對するものに非ず併し如斯き重大なる否日本國民として必ず強制せらるゝ問題は合理的に適用致し貰ひ度きものである。一兵役の義務、國家主權に軍隊が必要なりとせば、大いによからう、併し乍ら國家の歳入の過半も軍備に費し日清、日露の戰勝を夢見ておるとは餘りに時代錯誤も甚だしきものと云はなければならない。

軍隊は國家が最後に用ふる暴力である。戰敗により壓迫されたる國が永久に其國の支配下に屬するや否や。見よ獨佛におけるアルサス、ローレンス我國に於ても今や支那は關東州還付を迫つて居るのではないか。

子供の所持金を取らんとするに饅頭を與ふれば其子供は心良く饅頭と金と交換するのであらふ併し一方饅頭に代はるに拳骨即ち軍隊と云ふ劍付鐵砲を持つて無理に子供の所持する金を強奪して見よ必ず子供は泣いて所持金を渡すのであらふ即ち子供には力がない斯の如き子供が大人となつて力の出來た時には必ず以前に受けたる壓迫を恢復せんとするは理の當然である。斯くの如くにして戰爭は戰爭を生み全世界に何時の世にか戰禍の絶ゆることがあろふか、そして戰爭に依つて第一の犠牲者となるものは無産階級に屬する人々である。

見よ平時に於ても有産階級の子弟は在學中だから徴兵延期だとかやれ一年志願だとか、抑も一年志願兵が僅か一ケ年の在役にて將校となり並通兵は二ケ年にして上等兵とならんとするは幾何の努力を要するや、彼等特權階級に云はしむれば、曰く敎育程度が高い學校敎育で訓練して居ると學校敎育と軍隊敎育とはまるきり根本的に異つて居るのではないか學校敎育で軍敎育が理解出來るものであれば、軍隊を廢止して、學生に軍隊敎育を施しては如何に、況して一方は一ケ年にして尉官に昇り一方は二ケ年にして下士適任證をさ受ける者が幾何あるや百人中の二三である、一年志願兵が見習士官として勤務演習で入隊する野外演習にでも出れば皆上等兵に聞いてよふやくにして指揮をなし演習を終ると云ふ有様である。そして彼等搾取者の伜は入隊して第一期の檢閲が終れば直ちに一等卒となり第二期の檢閲には上等兵となり第三期の檢閲が終れば伍長となり第四期の檢閲には軍曹に昇り三ケ月三ケ月目に太抵は一級づゝ進級なさる一度復習に出れば見習士官として即ちに少尉に御任官なさる、我等は官位等級そんなものに對して是非を云ふ者に非ず一般普通兵は内必一年志願兵制に對して不平を持つものである、國家の前途を危ぶめばこそ御忠告申すのである。

國民の第一の義務として居る○○の義務をなぜ公平にせざるや無産階級には二ケ年の重役を損はせ有産階級は一ケ年となし其上前者がよふやくにして一ケ年かゝつて進級するものを僅か三ケ月でどん／＼拍子で御進級なさる如何に資本主義の國と云へ有産階級の横暴自家擁着の斯の如き大なるものはないのであらう。斯の如き不合理極まる××に○をすてる事は御免を蒙りたい第二の納税の義務近頃の資本家は圖々敷くも――夥しくも底税務官吏の御拂雁ひ脱税を企て居る事は世間周知の事である我等は累進税を設け其所有する財産に對し千圓より萬圓と税率を上げて行くべきであると共に相續税に重税を課すべきであると思ふ。第三の敎育の義務は如何に貧民の子弟が生き乍ら工場に於て農村に於て奴隷とせられ得る爲め敎育を施す學校たることを強要せらるゝのである。

現代の小學校敎課書にしても人類愛を基とした所が幾ケ所あるやそれ猿蟹合戰だのやれ桃太郎の鬼征伐だのと資本家の奴隷となる事や仇討や戰爭をすることばかりで埋まつて居る、そして現代の敎育は資本の回收ではないか、貧乏人は到底中學敎育は覺束ないから小學校敎育もそこ／＼だ資本家の子弟は中學校高等學校大學校とどし／＼幾ら腦の惡い者でも資本と云ふ力に依つて丁度トコロテンの突出しの如く落第し乍らでもあとから／＼と卒業して行くそして中學校を卒業すれば先づ差當り小學校敎員になつても五十圓の收入はある、高等學校を卒業すればどんな低腦兒でも七八十圓以上大學の門を出ずれば百二三十圓とか卽ち學校の門を多く潜つた事に依つて腦力の如何を問はずちやんと相場は決つて居る。卽ち資本金を多く出して多く學校に行く事卽ち資本をより多く出す事に依つてより多く回收が出來る卽ち現代の敎育は資本の回收であつて我國に於ては敎育の自由など全く無い。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農村荒廢に就いて青年に與ふ

前田辰之助

最近農村に於ける疲弊・困憊年と倶に甚だしく今や殆んど收拾困難となつた。

是れが救護の策として、現政府の對策を見るに、悉く絕望の外はない。農村の子弟は其生活困難に陷れる結果、家を捨て親を捨て丶農村を去り、都會へ志す者日々にその數を增し、農村には働くに甲斐なき老人と子供ばかりが殘されて、際限なく農村は自滅に傾く。而して飢餓を逃れ、都會に走つた、彼等の内の男は自由勞働者となり又は工場に入り、女子は紡績女工となりて餓死の變りに賃銀奴隷の名譽を擔わせられて、際限なく搾取されることゝなる。かくて賃銀勞働者となつた彼等は農村に於て鍛ゑたる强健體を以て、都會勞働者にとつての激勞をも、彼等は平氣に堪ゑ得るが故に、低い賃銀をも過勞を以て補い、次第に無意識の中に都會勞働者のさらぬだに、不安に怯ゑつゝある生活を脅威し或は破壞せしむるが如き同胞合食む大なる社會的悲劇の禍根を醸すに至る。

然らば農村を愛し刻下の農村の現狀を救はんが爲に勇敢に踏止まれる青年は如何すれば善いか。是れに就いては專門學者政治家の等しく、頭痛鉢卷で解決策を研究しつゝあるようだが要するに彼等はブルジョア御用學者にして、資本家的立場からの考察であり到底一個青年の私をして滿足せしむべくないのみならず、學者の迷論の多くが我が農村大衆を惑はしむる事實に想ひ到ればもはや私は默許することは出來ないのである。

先づ農村荒廢の原因の何れに在るか。單的に言へば、それは過去半世紀の間に、急激に亂調に發達したる、資本主義產業組織の缺陷の必然的暴露である。これは多少共社會組織に對して理解ある人々には容易に、首肯し得る所であらう。封建制度より資本主義制度へ一切の生產方法の推移の過程に於て、取殘された農村の時と倶に急激に發達する工業生產形態と十數年年後の跑步の相違は長久の距りとなるは當然にして、此の間を調節すべき交換方法又資本主義となり工業生產形態と併行するに至つて、終に資本主義的文明に取殘されたる農村の行詰まりとなりしものに外ならぬ、然も歷史的進化の必然力は、是れが此の儘の安寧恢復は望みなきを嚴然と宣告を下してゐる。

憤怒　しげたか

おゝ生存を許されざる者よ、
社會はお前に生活を與へない
社會はお前の生存を必要としない？
だがその社會とは何だ…
正しい生產者としての人間はどうだ
あつてなくてもいゝやうな動物が
享樂のために生きて居る
おゝ社會に秩序は存在しないのだ！
牢獄につながれ
塵溜をあさる人々よ
力なきを悲しむ勿れ
自らを侮蔑する勿れ
限りなき憤怒に生きよ！
かつて人類を救ひし
如何なる天國もあることなし

農村に限らず、資本主義制度の下では、一切の生產機關が個人の利益の爲にのみ獨專せらるゝ結果、利益に應じて濫造し、制限し、社會全般の利益或ひは必要等は問題とされない。此の弊害は今や世界の孰れの地にも浸み渡りて暴威を逞しうするが故に、今世紀に生る總ての國々の人々が共に苦しみつゝある所である。日本の國に在りては他の資本主義國の如く、未だ農村に於ける生產方法の進步を觀さる內に、他の總ての社會形態の先走りを喰つてしまつた國に於ては、その最も甚だしかるべきが當然である。要するに、今農村は都會の爲に犧牲されてゐるのだと言つても大した過誤ばなからう。勞働者は資本家の爲に犧牲を强いられ、農村は商業都市の爲に犧牲を强いられる、然も、眼に觀ゑざる糸を以て縛され見ゑざる鞭を以て鞭打たれるのが、資本主義社會の弱者である。資本家の前の勞働者は弱者であるが如く、都會の前の農村は弱者である。然も之れを以て尙ほ人道的なりと謂ふ。眞の人道は廢れ、道德は形式としてのみ殘され醜と惡とが人間の間を跳梁跋扈する。斯くて遠からぬ將來に於て餓ゑたる人の群は至る所に現れる。現在の農村は既にして然り、然も彼等は之れが救護を爲政家に求め、資本家に求めて憩まぬ。或る者は單なる逃避所を○○の牢獄に求めて自ら投じ、眞に憂ゑて根本の要諦に努力する者の歎きは慨嘆に堪ゑぬ所である。然し乍ら農村に於て生活するに道なき者に向つて農村に止まる事を强要することは無意味なことにちがひない。

唯望むらくは、熱誠にして正義に燃ゆる青年は都會に赴くも良し、農村に止まるも良し、孰れにしても、農村の隆興は青年の力に俟つべきものなれば、斯くの如く、不合理を孕む社會組織を立て直して一切の生產が萬人の爲めに向けられ、一切の享樂は萬人に依つて味わはれるべき、社會を建設しなければなるまい。個人は萬人の爲に働くであらう、萬人は個人の爲めにその生活を擁護するであらう所の社會制度を建設することこそ、完全なる農村の救濟策であり眞に誤らざる青年としての務めではなからうか。（九、一九、）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○○市電 ○○會の諸兄に與ふ

自家撞着より大同的結合へ進め！

大路龍一郎

去る六月から七月へかけて燎原の火の如く爭議を劃して各地に於ける交通勞働者の間に、或るものは協調的で御用組合であり、或るものは階級立場をハッキリとした鬪爭的團體、その中間を往くもの全く雨後の筍の如くに組合が作られた。そしてそれ等は今如何にして其の組合を完全に育て丶往くかと云ふ事に可成り惱まされつゝある事は事實である。

然しながら過ぎた日の爭議に依つて、それは一時は跡型もなく組合は壞滅されたとしても、それに依つて完全に降伏せない以上まだそこに何等かの要素が殘存してゐる可きであると共にあの慘敗に依る體驗は確實に交通勞働組合として否資本家階級に相對峙する各無產階級の陣列を如何に起て直す可きかは餘りに明白に數へられたる事實であらうと思ふ。

それ等の新しく頭を擡げて來た處の組合がそうした事に依つて惱まされてゐると云ふ事はまだあの慘敗が我等の戰線に如何なる不備の爲めに招致されたかと云ふ事を、そしてまだハッキリと階級的に自己の立場を見極めて居らない事に基因するものでないかと思ふ。

成程交通勞働者の勞働條件は他の工場勞働等と同一視しそれに依つて決定しやうとする事は出來ない、全く特種の事情を持つたものであるが故に同一線路に歩ます事は出來ないが、然し先づ吾々が敵に對して鬪ひを挑む場合には一部の條件が異なるだけであつて、その鬪ひの本質それ自體は何等變る可きでないと思ふ。こうした意味から云つても常然現在の組合の歩み方を轉換する可きである。

その歩み方の轉換——それは如何に轉換すべきであるかは、今新しく言ふまでもなく『先づ吾々は數の所有者であり、その數を同一の力に結合する事であら、その結合そのものが要するに吾々の力であり武器である』

それに附いて一例を揚げて言ふなれば、今こう〳〵と流れつゝある水流を塞ぎ止めやうとして多くの土砂を用ひたとしたならば、それは果して完全に塞ぎ止められたであらうか？

この問に對して萬人は『否』と答へる事に苦しまざる事と思ふ

そのこう〳〵流れる水流を彼等資本家階級が無產階級に對する迫害と虐げであり、それを塞ぎ止めやうする土砂は無產大衆であるとした場合に、如何にその大衆が結合の力を缺いてゐるかそして結合なき大衆の力が無力であるかは明白であらうと思ふ。若この土砂が完全に何等かの方法に依つて一つの固まりとなつてそれに對した時完全にその流れは塞ぎ止められた事は云ふ迄もない。

こうした意味に於てその組合としての多少方向を換へる必要は敢て難かしき理論で以てする可き問題でなく事實に於て常に吾々無產階級の身邊に附きまとつて居る重大な問題である。

だが或る人はこう云ふ。吾々は決して吾々の從事する產業のみに依つて組合を作りそれに依つて自分達の總ては成れりとするものでない、先づその出發として自分達の從事する產業別にのみそれを必要とするものであつて當然それが完全に醸長された時に於て一の全國的產業別組合を以て、全國的に大同團體を作るものであると。

然し吾々はそうした完全な結合が出來得る迄如何なる虐げにも迫害にも屈從出來るであらうか。否。吾々は一日としてこの不合理に甘んじて屈從する事は出來ない、あながち爭議がこの鬪ひの全部でもなく、日常に吾々は有ゆる方面に有ゆる手段に依つて彼等資本家階級に對して鬪いつゝあるのである。

（それは具體的に言ふ事は限りある紙面の爲め許さないから言はないとして）兎に角各產業別を問はずその出發から合同的に組合を組織する事に依つて始めて完全な無產階級としての戰鬪力が生ずるのであると思ふ。

如何に多くの組合が組織されたとしてもそれが何等の交渉なく、假にそれが交渉があるとしても、合同的組織でない以上それは表面の交渉であつてその事實に於て全く階級的に力の分散である事は免れない。

既に資本階級に於ては、力の分散は鬪爭上に大なる不利を知つてか全國的な團結を作りその鬪ひの前に備へて居る、現在に合同組織を叫ばなければ吾等の陣容は幾等か心細さを感じずに居られない。

少く共過ぎ去つた慘敗を考へその基因を探究するなれば、そして階級的に自己の立場と自己としての力を考へた時にその合同的組織の必要は必然に迫つた事實である。

で先づ地方的に各合同的組合を組織し、それが又全國的全世界的團結にと發達して往かなければならない。

（マルクスの言葉、）

萬國の勞働者團結せよ

萬國の無產階級團結せよ

これが吾々無產勞働階級の唯一の標語とするならば、矢張り事實もそれに伴ふ可きである。大山大將的な組合を作りそれに依つてその總てが成れりとして納まり返つてゐる所謂組合主義者を徹底的に排し眞の無產階級的立場に確かりと足を踏み締めて最も堅實な歩みを續けてもらい度い、否そう歩まなければならない。

◇　◇

此の駄文が○○市電○○會の諸君に何ものかを與へるならば幸である。（一九二四九一六　編輯室ニテ）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

不生産勞働

野田律太

「富」の總ては勞働の結晶である、例へば一ツのコップと言ふ富を考へても幾多の勞働者が汗を流した後の果實である、而も幾多の勞働者は共産主義的な生産組織に依つて苦役したのであつた、

「コップを作る先づ最初の勞働に從事した者は原料である硝子を表面に掘出す土方であつた。彼は樹木を切、土を取除けたま次に石工、運搬勞働者「仲仕」それから汽車、汽船等の運輸に從事した人の力であつた、その後に硝子工場の勞働者と云ふ順序になるのであるが今一歩考へを深くするなれば是れ等の勞働者が飯を喰ひ、衣服を着てることに依つて、百姓、漁夫、牛殺し、紡績女工、の勞働に從事して「コップ」を生産する爲に必要な一分の役割を勤めたわけである、火力に依つて硝子を容解するに缺ぐべからざる、石炭、それを地下より採つた坑夫、更に精巧なる機械は外國製であれば、外國の勞働者の「働き」を忘れてはならない。

斯く考へれば、此世の富の全部は全世界の勞働者が共同して作り上げたものである、

此間にあつて資本家は何をなせしやと言へば實のところ何も生産的な事はして居らないのである、資本家は言ふ、

「吾々も隨分苦勞する」と、成程それは吾々の目にもよく見へる事だが彼等資本家階級の苦勞なるものは眞に不生産的な、くだらないことのみである。

一例を擧ければ勞働組合を如何にし壞滅せんか、とか如何にして多額の利益を得んかとかである。

甚だしきに至りては如何にして最も愉快に遊ばん等は言語同斷であらう。

斯の如き苦勞なるものがもし「勞働」として扱われ人前にて「吾々も隨分苦勞があるんだ」として許されるならば吾人は最も露骨に、正直に○○をやる盜人に對しても其罪を許さなければなるまい、木枯し吹く寒い夜半、恐怖しながらも人家に忍び込む、其苦痛其の勞働、何と言ふ堪へ難いものであらう、然も法律は假捨く無く取締り重く所刑するではないか、これ當然のこととされて一方勞働者の共同力に依つて作りし富を○○する不生産的資本階級が社會の上層に居る事を許され得やうか。

不生産的なことはこの簡單なことにてもよく明瞭するが腐敗極まる現代には貧き勞働に汗を流しつゝも實は無駄な事、不生産的な事、の爲に多くの力を奪はれてゐるのである。

假に一人の富豪ありとしやう彼の家族數名が生活するためには必要以上に大きい邸宅が建てられる、其處には下女下男庭作等、十數名の人が使役せられる。此の下女下男の勞働は苦しいものであり尊いものには相違無きも僅かに數名の生活をのみ安樂にするのであれば結果に於て不生産的である。

大きな邸宅を建築した大工の勞働力もそれが必要以上に大きなものである故折角の勞苦は無駄な犧牲に供せられることになる彼の○○を安全ならしむる爲の色々と組織され、集中された○○は第一に大きな無駄なものだ。

一富豪の○○を安全ならしむる爲に捧げらるゝ○○の夜の目も寢ない勤勞も不生産なら彼の衣服も凡そ彼が身邊の總てものは不生的勞働を彼れが行ふ事に依つて價値なきものとなるのだ。

自働車の運轉手は免狀を受る迄に相當の努力をする、そして運轉中は堪へず前方に注意し責任の重きに痩る思ひをするであらう、けれども乘客が花柳界に通ふ爲であつた時、其の努力の全部は結局不生産的たらざるを得ないであらう。

藝妓か小娘の時より三味線を習い寒聲を取り舞を習ひたる苦痛も彼が搾取階級の遊びに愉快を盡す爲である事の爲に何にもならない、如く彼の女の結ぶ一筋の帶に朝 星を見て仕事にかゝり丹誠に嫁いだ西陣織物の女工も實の所、不生産的勞働に從事したまでゞあつたのだ。

資本主義國家には避け難き戰爭も○○なく階級なき社會には鬪爭なき故に不必要になる、新社會、卽ち理想の現實を空想して見れば現今重要視されてゐる戰爭に必要なる軍艦並に其他數々の機械、器具に拂はれて居る勞働力は不必要であり笑ふべき高價な不生産である事を悲しまねばならん。

思へば現代資本主義は呪ふべき不生産的組織である。

天を摩す大百貨店に美しくも飾られてゐるキラビヤかな無數の贅澤品、それは汗水流す勞働者の○を○○し骨をシヤブル支配階級の奴等が虛榮の道具でなくて何であろう。それが人類生活に何の關係があらうか。是等無必要なもの丶爲に導き勞働を捧げる事より自覺せよ、仁丹の廣告に澤山な電燈は輝いてゐるが勞働者の住宅は薄暗い。

此不合理を改め無駄な勞働を中止し働き甲斐ある社會建設の爲に萬國の勞働者は團結せなければならない、○○れたる富を取返さねばならない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海上勞働問題の將來と無產階級運動（二）

――現在の組合運動の狀勢――

海　野　龍　平

日本の無產階級運動は實際『目ざましい進歩』をし、亦現に新しい有力なる、戰鬪隊形にてブルジョアの牙城に肉迫して行きつゝある。陸上の勞働組合は大部分革命運動化し、更にそれを有意義なる運動たらしめんために、所謂運動の方向轉換を行ひ、無產階級大衆を少數分子と同樣に思想的に革命化すことゝ無產階級の政治上の積極的行動にうつることゝの二大目標の下に、其の運動をすゝめて居る。無產階級の運動は常に普遍的な全無產者大衆の行動であることが其の最も重要なる運動の原則であらねばならぬ。

無產階級運動が、近代資本主義產業組織の當然の副產物として生れた限りに於て產業の資本主義化が最も亂調に達することが、勞働者の階級意識を呼び起す積極的、直接的の原因であることは事實である。

然るに日本の海上勞働運動が資本主義の暴虐が最も發揮された今次の不景氣に際しても尙、陸上の運動のそれの如くに發達しないのは、海上勞働者の生活が陸上勞働者の生活とは大にその生活の形式を異にし、更に現在の社會が新しい世紀へうつらんとする其の過渡期に於けるブルジョアジーの姑息なる反動政策が時代の推移に其の生活の性質上より無頓着である海上勞働者の階級意識を、常に國家主義的思想化した爲めに、海上勞働運動が陸上のそれの如くに發展することなく、陸上の無產階級大衆よりはるかに其の思想上にも、行動にも遲れたことは、ブルジョアジー的な今までの海上勞働運動のリーダーの責任である。故に陸上の勞働運動のリーダー及その組合員は、――その運動が無產階級の運動である限りに於て、まだ半世紀遲い時代を彷徨せる海上勞働者の思想を〇〇化することは其の友誼的責任であらう。

以下海上勞働運動について理論と而して、海上勞働運動の過去、現在、將來についての説明及豫想を等を述べて見よう。

海上勞働者の生活は、對象となるものが常に變轉極まりない自然界にあるだけに更に其の生活上常に家庭にありて平和なる生活をなすことが出來ないために海上勞働者には性的に常に寂寞を感ずる。それが引いて海上勞働者の精神を粗暴にし、從つて刹那主義的、肉感的な生活の形式となる故に、海上の勞働者には勞働運動に最も必要な自分から己れの生活を改造しやうと言ふ樣な自發的意志や美しい犧牲的精神に乏しく、陸上の働者より思想的墮落し易い傾向がある。加ふるに、航海中は一切の陸上の享樂からも文化からも、智識からも絶緣した生活を續けるために、陸上の勞働者より智識的に半歩の遲れあるは爭はれない。亦週期的に各航を廻航して歩るくのであるから、其の團體的行動に統率的能力を缺くの嫌がある。それ故に未だ多數の勞働海員はケチな小ブルジョウの夢を憧れて、最も多く、無政府主義的思想に誘惑され易い特質を持ち。陸上の無產階級大衆とは、全く異なつた、墮落し易い社會群である。

現代の海上勞働者のこの腐敗した無秩序なる思想的狀態を形式にだけでも統卒した樣に見せて居るのは、日本海員組合と日本司厨聯盟と海員協會の三勞働組合であらう。この外にも小さなグループ的勞働組合はあるけれども、それは多數の海上勞働者の思想を代表することに於て遠く三者に及ばないのである。まだ未知數に屬するが海上勞働團體中一番明確なる階級意識に立脚して行きつまつた海上勞働運動を新しき局面に展開するべく宣明して立つた日本司厨聯盟は一九二三年六月二十一日神戸にて發會式を上げた。

日本司厨聯盟は商船同志會、東洋倶樂部、海友會の縱斷的組合が橫斷的に提携した者である商船同志會は其の綱領に『獨立自治の精神に基き、智能啓發、德性の涵養に努め、愛と自由と正義とを基調とせる新文化の建設を期す』と宣言し、大阪商船會社の司厨部員千六百名を糾合し、職業的勞働組合として健實な歩みを續けた者であつた。海上勞働者中司厨部員が最も階級的自覺の早かつたのは、司厨部員の職業の性質が他の甲板機關部員と比較し、後者が海員として永久性を帶びた職業であるに反し、司厨部員は老後の生計を陸上生活に求めることの便利なるために、其の階級的團結力が旺盛になり、ブルジョア階級に對し、他の勞働組合が協調妥協と躊躇してる間に、一人挑戰的態度になり得た理由である。

他の東洋倶樂部、海友會も所屬せる船主に取りては縱斷的組合として組合員の相互扶助と漸進的向上のために努力して來たものである。然し海上勞働者の先驅者の思想が陸上のそれに比べてまだ排色的であり、協調的であるために、其の行動が特に記錄に價する程ではなかつたらうと思ふ。

然し日本司厨聯盟が、卽ちその宣言の如く、『愛と自由と社會公正とを基調とせる新文化の建設』の下に糾合したのは、ブルジョアの理由なき搾取と、あまりに殘虐なる酷遇に反抗したる大衆の社會主義の新社會建設運動と目すべく、日本の海上勞働運動の暗黑なる歷史にかすかに黎明の近づいたことを證するにたるだらう。（以下次號）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

髑髏は語る

中濱鐵

噫！
噫！嚴粛莊嚴なる悲劇の出發——
現、は未來へ轉び飛ぶ
死は偶然だ、永遠の賭博だ
人間は自身ギロチンだ、歷史の流れの一滴だ
干潮より滿潮へ押し寄せる血潮
死より生へ、無より有へ
虛無よ自由よ！血よ死よ生よ！
力は總てを所有にする

無くてはならない者になつて屁を嗅くか
有つてはならない奴になつて沈香を焚くか
人生の億兆は何方途無有の間に居る
抛り出された骰子一つ
一か撥か沈默の命令
丁か半か運命は轉ぶ
勝てば官軍錦の旗風
敗くれば秋風、城山の月——

灰色の娑婆に愛想が盡きて
徒歩るのが可厭になつたので
砂漠の隧道に轉殺して瞠ると

赤い沼は悉皆呑まれて
日輪も此處では真黑に焦けてる

四邊は新しい墓標で一杯だ
三本の黑い姫百合の花が
卒塔婆の林に薫り吟行ひ
骨臭い微風に接吻し抱擁して
蒼白い節太の手に化つた

切に招いて握手を挑むので
死灰の中を碌々と寢返つて
近づいて瞶のたら確かに彼等だ
「河合」の腕だ！
「平澤」の胸だ！
「大杉」の顏だ！

愛と自由の正氣の狂人連は
冷い自然石に腰を据ゑて
血みどろの物凄い形相が
力強く幅廣い裏聲で
交互に靜かに俺ろ語る

潛鐵！好く訪つて來た 待つてたのだ
明日は地獄の最後の審判日だ
今宵は亡者共の別離の舞踏會だ
その土饅頭の側に胡座をかいて

雜誌漫評（一）

——九月號——

原茂陸

「社會主義研究」日本フヱビアン協會發行―この雜誌の特徵はその智識的な所にある。こゝに云ふ智識的と云ふ意味は統一と力の缺乏を意味する。部分的に見れば皆相當な名士の執筆、而もそれが「改造」や「中央公論」にくらべて、はるかに熱情と興味に乏しいのは何故であらうか？ 殆んど全部が、義理やおつとめで書いたもの〻やうに思はれるのは、僕の僻目か？

恁う片づけて了ふては玉石混淆の譏りを免れないから、實際感謝して讀んだものを摘記して見やう。「ダンナーの科學的社會主義數程」「我が國銀行の集中の傾向」これだけは文句なしに、有意義な文獻である。「社會講談の話」も面白く讀んだ。その他のものもある意味では皆まじめな文章である。しかし最後に「木村毅」と云ふ名を見たとき一寸不思議な感じがしたことを云ひ添へて置く勿論內容を讀む氣にもならなかつたが、こんな男がフヱビアン協會に入る時代も來たのかしらと感心した。

「マルクス主義」マルクス協會マルクス・フヱビアンと名前こそ異れ同じ協會である。協會なんか云ふ言葉は前世紀の遺物位に心得てゐた僕には、どうも商賣臭くて感心しない。折角の名論もこんな先入觀で見られては甚だ迷惑だらうがこれが日本の現狀に適すとあれば仕方がないと諦めよう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

悠乎と踊を觀て往くがいゝ――

十字街に燐光が煌き零れて
骨壼を抱いてる『野枝』さんを照らし
赭く焦け肥つた『宗』坊は
小霧の中に悦び勇み
三叉路の上を跳ね廻つてる

地殼を破つて匍匐ひ出た亡者達は
群り吶喊いて起ち上り
呪詛に恨怨に呻き唸り
溫い新鮮な原始の懷を索めて
虛無愛を携へ闇に舞ひ進む

數多い永遠の奇蹟を訪ね
長い旅路に仕込杖を突いて
殘された沈默の足跡を踏み締め
幻を未來に追ひ詰めながら
陷穽の彼方へ正義の步を運ぶ

濱鐵！何時までも去勢者のやうに
不平の唄ばかり怒鳴つて何に役立つ？
卵さへ十二の日母熱に孵化り
殼を破つて雛ッ兒と飛び出し
蹴爪を研いで羽搏き鬪ふに

哀しい歌は書齋と樂器に
當分封じ込めて置け！
新しい春の綠の舞臺で
眞紅な焰の襯衣を通して
黑く迸る勝鬨を叫ぶまで

瘴氣に滿てる死の水面に
太平洋の巨濤を眞黑に漲らせ
アルプスから引こ拔いて來た大杉を
それに浸して含ませて
さて一體何と書こう？――

『〇〇〇〇〇』と透逈つちまへ！

氣絕してる蓮山嶽に活を入れて
齒嚙みしてる噴火口に焰を吐かせたら
六字は永劫に燃ゐ續き擴がり
東の都の天に輝いた時
江戸ッ兒はそれを何と誦むだらう？

其處まで往けば最早大丈夫だ
全ては都合良く此方徒等の所有だ
同胞よ！濱鐵よ！
其の惡運の大綱奴が目指す仇敵だ
鋭！一刀兩斷にやつけてくれ！――

しかし流石、共產主義の御本家だけあつてその商賣上手には、つくづく感心させられる。珍らしく今月は堺利彥氏の「無產政黨組織に對する意見」を拜讀するの光榮に浴したことは先づ以て僕らの喜びとしたい。

「共產黨事件で大味噌をつけ」「お上に對する意味ばかりでなく、諸方面に對する」謹愼の意味で差し控へて居られた堺氏が謹愼を曖味と解禁され、更に狡猾と認定されると」こんな塵つて發表されたのがこの論文である。

そこで要するに氏の結論は「綱領の不鮮明などは憂ふるに足りない。分子の純不純なども甚だしく氣にするに足りない」「だから最初のスタートの時、余り考へ過ぎて潔癖に陷る事は禁物である。」さうである。どうせ最後は共產黨のものになるのだからと高飛車に出られたのは流石にゑらい。共產主義のため一ぴの力を添ゑる吾々未輩有り難く感謝すべきであらう。願はくばわが無產階級戰鬪雜誌「進め」にも折々はこの種の御名論を寄稿して貰ひたいものである。

しかし茲に不思議に思はれるのは嘗て堺氏は雜誌「突破」創刊號に寄稿して、「無產階級政治運動の危險」と題して、政黨組織どころか單なる政治運動と云ふ言葉に對してさへ、大なる反對を表明されたことがある。共產黨事件で一仕事終られたので、ぼつぼつ方向轉換とて來た譯でもあるまいが、期を見るに敏なる氏のことであるから、吾々の指摩憶側の限にあらずであらう。それとも外の者がやれば危險だが、乃公がやることには危險はないとのお考へか？

思はず筆が逸れて傍道に入つたが、僕らは今更こんなことに拘つてゐる餘裕はないのだ。活動の舞

彼等は上氣しながら語り終へて忽然と消ゐた
俺は此の痛い言葉の注射に目醒めた
同志よ！奮ひ起て！顧っても見ろ！
閃驅した自由の明星　達は
死を擔いで闇中に方向を示した

流星隕石の墜落爆發――
その深煙を押分け尋ねて
旺んに進み奪ひ還すは誰ぞ！
眞理の積極は不斷に新手を要求する
破壞の究極は無限創造の渇望だ

彼等は民衆の第一線に骸骨を晒した
彼等の尊い靈肉は充分に香ひ償した
俺達は俺達は嗚呼――俺達は
強暴な帝期の魔手に戰慄し
旗を背嚢に收めて退くの？

否々　否々　萬も否
俺はゾルレンにザインを挑發る
俺のレーベンは湧き噴き沸り迸る
同胞早お行かう！俺達に殘された唯一の所有
立派に往生する斷行へ――
亡ほさなければならない奴を速かに沈めろ！

〇〇の手淫も二二ンが四回で澤山だ！
生かさなければならない者を速かに浮ばせろ！
存在の欠伸も八ッ八六十四年で澤山だ！
倒さなければならない物を！
起さなければならない事を――
娑婆と冥土は叩けば響く
音を聞いたか彼等の濁聲を――

盂蘭盆提灯はゆら〳〵搖ろぐ
淀の河瀬はおろ〳〵泳ぐ
睡られぬ檻に夜汽車は叫ぶ
彼等を送りて歸り路か
正義の隧道に潜ろ掲燈
闇を突き進むこゝろ一條
自由を重ねて彼方に逢ふ
彼等の死屍に祝福あれ！
彼等の生靈に歡喜あれ！

卒塔婆枯れ
故郷は初秋
新墓を抱く――
土の聲に
蟲啼く

噫矣

（附記）

大正拾參年八月拾四日（陰曆七月拾四日）夜
獄中に同志等の初盂蘭盆を遥かに憶ふ

盛は廣い。新しい天地を開拓する者は過去に屈托しない。引續いて「マルクス主義」の紹介にとりかゝらう。

高橋貞樹氏の「國家に關する一斷片」に就ては本號に「進め」同人石川氏の詳しい批評が出てゐるからそれに讓る。高橋龜吉氏の「日本無產階級政策の經濟綱領研究」は眞に有益な研究資料である。浦田武雄氏の「我邦金融資本の趨勢」といふのは、新聞の經濟欄を見るやうで面白くないから敬遠しておく。林房雄氏の「階級鬪爭に於ける智識の役割」は、書いた人が有識者であるならば、一般無識者は安心して讀み得ないものだ。ともすれば日和見主義學者の惑はしに欺かれ易い、事實欺かれて來た勞働者に無條件ですすめる譯にゆかぬ。

次にレーニンの「社會主義の分裂と帝國主義」と、ヴルガの「資本主義の沒落時代」の譯か連載されてゐるが低級な吾々には、親しみのない、高級な文章で一寸解り惡いのは遺憾である。

「潮流」といふ雜誌がまだ生きてゐたと見ゐて僕も偶然一瞥した。なか〳〵うまく編輯してあるしムサングラフと銘打つたところ、さすが氣が利いたものだ。これで續けてやつて行けたら偉いものだ。今にアサヒグラフやサンデー毎日なぞそこ退けの勢となる請合だ。

が藤岡某と云ふ男、性懲りもなく、他の雜誌のことを、播溜編輯なぞほざいてゐる。何度、あやまり狀を取られても恥を知らないと見へる。埋草の一つか二つも書ければ、もうすぐ大家にでもなつた樣な、のぼせ方には、愛惜がつきる。まあ、せいせい奮闘し給へ御褒美には何をやらうか？

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

批判

故國の同志の諸論文を讀みて

——ジャバの或る都にて——

山田有美太

（一）

『進め』社同志諸君

偶然の機會で、『進め』の第一年九號と第二年一號二號とが手に這入つた。情勢から久しぶりで文をもらつた程嬉しかつた海外に放浪してゐると、時たま手に這入る故國の文書が何よりの樂しみだ。

色々當地の話がして聞かせたい。しかし、それよりは僕には日本のことが尚ほ氣にかゝる。『進め』によつて大分同志の消息や運動の方向等が分つた。大いに心を强ふするに足る點もあるが、又ガツカリさせられる點もある。以下忌憚なく同志諸君の所說を批判して見るから、どうか怒らずに一讀して呉れ給へ。僕としては無駄な惡口をたゝくのではない。日本の運動の正しからんことを切望するからだ。勿論僕の意見が間違つてゐるかも知れぬがね。

先づ第一に、去年十二月號の卷頭言『リベツ化の傾向』を拜見する。卷頭言であるからは、『進め』社の社說として取扱ふ『リベツ化』の傾向に對しては僕は、同志諸君と共に大いに慨歎する。果して諸君の觀察するが如き傾向であるとすれば、大いに吾々は警戒せねばならぬ。吾々の運動の危險は、今は左からでなくて、右からであることは事實であらう。これ等の觀察については僕は全々この卷頭言を容れる。たゞ岡君のこのステキに上手に書けた短文中に許す可からざる一句がある。それは終りから七行目の『優秀なるプロレタリヤの眞理そのものは、むしろ、大衆より孤立すべきを原則とせぬか』の一句である。

これは、『プロレタリヤの眞理』に對する冒瀆である！若しも眞に岡君が斯う信じ『進め』社を斯く信じてゐるのであつたら、それはトンだ事だ。恐らくこれは筆者の筆の過りであらう『進め社』もウツカリしてゐたのだらう。

『優秋なるプロレタリヤの眞理』とは、コンミユニズムを指すのであらう。しかしコンミユニズムは大衆から離れては存在し得ない。大衆から孤立するものは机上の僞コンミユニズムであるユートピアである。

机上に完成されたコンミユニズを日常の民衆の鬪爭から切り放して見ることによつて、この誤謬が生ずる。『優勢なるプロレタリヤの眞理そのものは』のかはりに、『優秀なるプロレタリヤの眞理をユートピアとして說く者は』とすれば間違いはなかつたのだ。

筆者は共産主義小乘數には達してゐるが、まだその大乘數を體得してゐない。普選運動卽〇〇主義運動となつたときに初めて眞に、『優秀なるプロレタの眞理そのもの』が活きてくるのだ。小作料値下運動であれ、勞働時間短縮運動であれ、普選要求であれ、凡てこれレニンの眼にはコンミユニズムの活きた働きであつたのだ。それは丁度、衆生の常住坐臥が釋迦には佛の表象であつたと同じに。

戲談にも、共産主義は大衆から孤立するものだなどと云ふ可きでないと信ずる。若しも萬一筆者の云ふが如くんば、日本の吾々の運動は、再び『社會主義同盟』以前の前世紀運動狀態に逆轉するを『原則』とする譯だ。

（二）

次ぎに十三年一月號の重要論說、山川君の『新形勢と新方策』とに及ぼう山川君は遙か遙か僕の先輩である。そして日本は無論のこと世界でも有數の共産主義のオーソリチーである。君の言は一言半句と雖も輕々に讀み下することは出來ない。多くの後輩は君の言を金科玉條として受け入れる。斯かる大家の說に同主義の末輩が質疑を挿むのは失禮かは知らぬが、解らないところが有れば仕方がない。

『社會民主々義的政治運動に對し共産主義者は何を爲すべきか』は、實に刻下の重大問題である。これに對する山川君の如きオーソリチーの斷案は、將來の吾々の運動を決定する上に非常な重みを有つ。この意味に於てこの一文は、この一言半句たりとも輕視する事は出來ない。

眼前の形勢に對する山川君の明晰解釋と分析とに對しては僕は一も二もなく同意する。全く君の說明の通りだと信ずる。コンミユニストの立場からの觀察としてそこに一點の批難する餘地はない。ところが結論に這入つてから僕等後輩が判斷に迷ふ字句が二三ある。この一文が單に學究的論說であるならば問ふに足りぬ點だが、實際運動の指針としてならば飽くまでも明らかにせねばならぬ。

その一つは、（六）の十六行目『吾々は或る時には、政黨の効果を棄てゝも、この危險を避けねばならぬ』の一句である。

これは果たしてどう云ふ『或る時』と、どう云ふ『政黨の効果』とを意味するものか、それが判明しなければ吾々は迷ふ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

前數段に亘つて山川君は目下如何にプロレタリヤの政黨が必要であるかを力說してゐる。例へば(四)の下に「この新形勢に對して吾々の任務と吾々の努力の進路は勢ひ小ブルジョア民主々義が無產階級を分解し同化する作用に對して無產階級が政治的に分散することを防ぎ、之を全階級に保全することである」と君は說いてゐる。そしてそれには無論(三)に書いてある通り「けれども無產階級が小ブルジョア民主黨の勢力を利用することが出來るのは、無產階級が一個の獨立した政治的勢力として結束してゐる場合に限られてゐる」

それは全くその通りである。然るに斯までも日本無產階級の政治的結束即ち政黨樹立が刻下の急務である場合に「吾々は或る時は政黨の効果を棄てゝも、この危險を避けねばならぬ」危險とは一たい全たいどんな危險であるか。山川君はこの危險を一新に生れる勞農黨が、包容的であればあるほど、その政治運動は、無產階級の革命的政治運動の本流を踏み外づして、單なる社會政策的の議會主義政治に溶け込んでしまう危險は增加する」ところの危險としてゐる。

「無產階級の政治的結束」であるところの新に生れる勞農黨が、無產階級分子を包容すればする程、その政治運動が「無產階級の〇〇的政治運動の本流を踏み外づ」す心配をせねばならぬところに、今まで「本流」を固守して來た先發の苦勞があるー悲哀がある。

無產階級の大勢か今日社會政策的であると云ふことが事實であるが故に、「進退兩難の立場に立つ」吾々が「政黨の効果を棄てゝも、この危險(本流を踏み外づす危險)を避けなければならぬ」乎。嗚呼!

無產階級の多數を包容しても「〇〇的政治運動の本流を踏み外づ」さない政黨を最初から組織しやうと云ふのならば、百年淸河を待つ類ではあるまいか。

曾て日本の吾々の運動の本流が、山間溪谷をチョロチョロ流れてゐた頃には、實にそれは淸かつた。それは僕もよく知つてゐる。だがその上流の淸さを記憶するが故に、そしてその下流であるところの今日の吾々の運動の流れに、犬や猫の土左衞門が浮んでゐて穢いからとて、今日のこの下流が本流でないと云ふのはチトおかしい。無論山川君は、それが本流でないとは明らかに言つてゐない。けれども今日の混沌たる下流全體を總括的に本流と見ることはいやらしい」この濁つた大きな流れに飛び込むのが山川君には厭らしい

前段で僕は岡君を小乘教徒だ.と云つた。若しも山川君が前述の如き回避を心にしてゐるのだと假定すれば、僕は同じく君をも小乘教者だと呼ばねばならぬしかしそんな筈はない。僕の頭が鈍くて充分に同君の文章を解し得ないからだらう。

「無產階級の〇〇的政治運動の本流」は搾取關係その他凡ゆる經濟的、社會的及び政治的現實の河底の上に流るゝ無產階級大衆の趨勢そのものである。之れが若し社會政策的方向に流れてゐるとすれば止むを得ない。それが吾々の欲する方向に流れてゐないからとて、それを支流だとは呼べまい。吾々はそこに棹さゝねばならぬ。この「本流を踏外」さないやうに政黨と云ふ船を吾々は直ちに浮べねばならぬのではなからうか。流れの方向が氣に喰はぬからとて浮べねばならぬ船を浮べぬのは、果してコンミュニストの態度であらうかどうか。

(四)

それから最後の(七)に「政黨氣分の景氣に煽られることは如何なる場合にも排斥しなければならぬ。吾々は政黨氣分の景氣を過大視してはならぬばかりでなく政黨運動の効果をも決して過大してはならぬ」とする。この數示に對しても吾々後輩は迷ふ。「過大」の程度が分らないからだ。

しかし直そのあとに「組合運動に對する熱心と精力とを、政黨運動に轉換するやうなことは無產階級運動に對する許すべからざる罪惡である」とする。この程度に於ける警告ならば、僕も全然同意である。若しも吾々同志の間に組合運動に手を燒いたからとて、水の易きにつくが如く政治運動に趨るものがあつたなら、それは謂はずも知れた卑怯な逃避だ。しかし眞に〇〇主義運動を解するものならば今日の日本にとつて組合運動と政黨運動とは車の兩輪である位の事は分り切つてゐる筈だ。

そこで僕の觀察では、政黨運動に努力するが故に、組合運動の方がお留守になると云ふ危險は單に小數の所謂指導者と數へられる人々の間にのみ存在するものと思ふ。一般組合勞働者のランク・アンド・ファイルは、政黨に參加したからとて格別時間をそがれる譯のものではない折々の集會に缺かさず出席すること、選擧の場合に投票すること、多少の黨費を負擔することその他には自らの研究のために出來得るだけ出版物を讀むことゝ、工場で仕事しながら仲間と話をすること以外に殊に時間を潰さねばならぬことは無い。これ位の負擔のために組合運動の方がお留守になる筈はない。そして吾々の目的とする政黨が小數の指導者を以て組織するところのものではなくて、無產階級大衆の政黨であるならば、小數の指導者がトテモ忙がしくて兩方に手が廻らないからとて、それが政黨運動を中止する理由とは絕對になり得ない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

又政黨運動の發展によつて無産階級有志の活動の範圍が廣くなれば、それにつれて闘士はどし／＼生まれてくる。だからこの點は、今までの御定連が心配するほどの事ではないと僕は信ずる。

「政黨氣分の景氣に煽られるいい、ことは、如何なる場合にも排斥しなければならぬ」と山川君は言ふ。しかし今日の無産階級政黨氣分を煽つたものは一たい全たい誰れですか。尠くとも一部分に於てそれは日本のコンミユニストである、山川君をも含む。煽つておきながら煽られるなとは、それは聞へませぬ傳兵衛さんだ。あんまり酷ひ！

山川君に尋ねるが、今日日本の共産主義者の仕事として〇〇と宣傳以外に一たいどんな仕事がありますか。ロシヤの樣に共産主義者が天下をとつたのちならば、〇〇と宣傳以外に建設的方面の仕事は山程あるが、〇〇の初歩的過程に於ける共産主義運動の方法としては宣傳と〇〇以外に何にがあります。無論そこには組織があるけれども大衆の組織宣傳と煽動の後にのみ成り立つ。

大衆は山川君の如く理論に徹底してゐない。冷やかに理論から割出して共産主義運動に參加する場合は彼等にとつて寧ろ稀である。「政黨氣分の景氣に煽られ」なければ大衆の政黨は日本に當分出來上らない。

山川君のこの煽られるなと云ふ警告は僕にとつて實に意外のものである。官憲の注目に對する一つのカモフラージであるとならば譯が分るが、吾々同志への眞の警告であるとすればおかしい。吾々末輩ながら共産主義を固く信じて赤旗の下に死を誓ふものたちは山川君如き先輩に〇〇せられることを名譽とするものである。恰も兵卒が進軍ラッパによつて勇み立つ如く、吾々も先輩の熱烈なる煽動なくしては勇氣が奮い立たない。煽動することが罪惡でさへなければ〇〇にのることが恥でも決してない。

山川君、海は年中滿潮ではない。この上汐時に政黨の船を出してしまはなければ、又君は再び「硝子函」の中に納まり返らなければならなくなりはしませぬか。政黨氣分に煽られるなどと水をかけずにもつと／＼油を注ぐ可きではないのでしようか。

昔、日本でサンヂカリズムが全盛であつた頃「智識階級排斥」を盛んに叫んだ智識階級者があとから自分達も排斥の的となつて閉口した事があつた。今日煽動を職とする人が煽動にケチを付けてあとから困ることはないかしら。

（五）

それから本年三月號の島中雄三君の「パアリヤメンタリズムの新意義」は頗る興味のある文だ。聞くところによると島中君は此度日本に出來んとする無産階級政黨組織の中心的役者であるそうな。さすれば同君の政黨に關する意見は頗る重要な譯である。この點からして僕は特に注意してこの一文を讀んで見た。

島中君の無産階級解放運動に對する經濟運動と政治運動との關係說には隨分へんなところがある。しかし學者の机上抽象論に觸れる必要はこゝではない。僕はまだ日本の實際問題に觸れるところだけを指摘する。

端的にいへば現在の日本では〇〇的政治運動は不可能である」と同君は斷定してゐる。隨分思ひ切つた斷定だ。「それは時期がまだ到つてゐない。社會的條件が備はつてゐない、組織と實力とが充實してゐない」からだそうだ。同君はかなり共産主義に傾ひてゐた人だと思つてゐたが之では賀川大先生と御親類筋だ。

「即ち日本の現在に於て及び近き將來に於て起らうとしてゐる運動、起さなければならない運動はコンミニストの政治運動ではなくて、デモクラシーの運動である。議會の立法機能によつて無産階級の利益と權利とを伸張することを直接の目的とし、此の目的にかくれてブルジョアの政治の現實を導き、それによつて一般無産大衆を敎化し訓練するを旨とするパアリアメンタリズムの運動である」と同君はパアリアメンタリズムに「新意義」を附けてゐるが、「ブルジョア政治の現實を導く」のではパアリアメンタリズムは迷惑するる。之れは正しく同君が採らないところのコンミユニストの政治運動である。

コンミユニストの政治運動を「デモクラシーの運動である」と僭稱してそれを實行するのは御勝手次第であるが、さうまでその筋に氣兼して表面を裝はなくてもよからうに、そこに智識階級の苦勞の程が察せられる。

しかし大體に於て、「近く普選が實施せられるであらうとの觀測から呼び起された新機運は言ふまでもなくデモクラシーの運動である」云々以下の同君の觀察は正しいと僕は思ふ。日本はどうしてもまだ一度全體に亘つて、デモクラシー化を行はなければならぬのは事實だ。しかしそれが故に「現在の日本では〇〇的政治運動は不可能である」と斷定するのは、オポチユニストならでは出來ない業だ。「〇〇的政治運動を必要とするまでに」「經濟的運動の成熟」を待つ。これが日和見主義者の從來の政策であるが、之れを島中君は主張する。さう云ふ人が來らんとする無産階級政黨の中心的主役者である！桑原々々！

現在に於ける日本の「〇〇的政治運動」とは、島中君が云ふが如きデモクラシーの運動中に立ち働いて、その運動を單なるデモクラシー運動に止まらしめないことである。「〇〇的政治運動」の餘地は今日眼前に十二分に展開してゐる。心配無用。

コンミニスト活躍の舞臺は結構出來てゐる。役者が何百人何萬人飛んでも跳ねても狹すぎる憂ひのない舞臺は開けてゐる。

諸君、サア、やつた／＼。全世界のプロレタリヤが觀客だ。ラチのない樂屋の長談議は切り上げて、すぐに幕を開けてくれ。

（一九二四年四月二十二日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

マルクス國家論に就て

石川準十郎

一

北原龍雄氏は『マルクス主義』の七月號に『國家社會主義の國家觀』と題する注目すべき一文を載せたのであつた。該論文は高畠素之氏等の所謂『國家社會主義』に對する科學的批判を試みたものであつたが、遺憾作ら甚だノンセンスなこじつけに過ぎなかつた。私は一個の社會主義學徒の立場から、北原氏の該論文の高畠氏等の國家社會主義に就て見當違ひの論難を含むこと、非マルキシズムであること、純科學的見地からしても到底科學的檢討に堪へ得ないものであることを、高畠氏等の社會主義研究雜誌『急進』九月號に於て十分指摘したつもりである。(『急進』私稿『自稱マルキシストの非マルクス的國家論』)

が私が此處に述べようとするのは勿論その再論ではない。同じく北原氏の該論文に對して書いた所の『マルクス主義』九月號に於ける『高橋貞樹』と云ふ人の『國家に關する一斷片』と題する論文に就てゞある。

二

高橋氏に依ると、『マルクス說は今や確固たる地位を獲得した。そして無產階級解放に關する唯一の科學的理論としてその偉大さを認められて居る。それと同時に、又眞正マルクス主義は、直接の壓迫のみでなく、あらゆる骨拔きと俗惡化と、日和見主義化と闘つて居る。かような時期にあつて、國家に關する問題が理論的及び實際的重要さを有することは言ふを待たぬ。レーニンの言つたように、閑却或は忘却せられたるマルクスの國家の本質に關する學說を、誤解と曲解とから闡明することは實際の必要である許りでなく、焦眉の急である』さうだ(因にレーニンの『國家と革命』の中に丁度これと同じ樣な文句が書いてある)。之に依ると北原龍雄氏は、『骨拔き』の人間『俗惡化』の人間であり『日和見主義者』であるらしい。そこで高橋氏は『私は今更にマルクス說の普及と理解とが、社會主義者の間にさへ及んで居ないことを感ずると共に、この機會に、この問題に關するマルクス、エンゲルスの分析の片鱗に觸れて見たいと思ふ』と。斯して初めたのがエンゲルスの言葉の綴り合せである(因みにこの點もレーニンの『國家と革命』の中によれば簡單明瞭に出て居る)。之に依ると、北原龍雄氏はマルクスの國家觀をテンデ分かつて居ない社會主義者であるらしい。

かう言ふ齒の浮く樣な言態を聞かせられては、つむじ曲りの私は却つて、高橋氏に對して二三物言つて見たくなる。同くマルキシストであることは云ひ乍ら相手の言ひ分を(殊に同志の)十分聞かずに、相手を陷いれようとする樣な人間は私は大嫌だ。

三

第一に高橋氏の云ふ所の北原氏の『骨拔き』『俗惡化』『日和見主義化』とはどう云ふ理由だ。レーニンが『國家と革命』の中に云つてる『骨拔き』『俗惡化』『日和見主義化』は、同書を讀んで見れば分かる通り『暴力を以てブルジョア國家を倒すことを否定する若しくは避くる國家說を採る社會主義者』のことを意味して居る。然るに北原氏は曾て雜誌『進め』に發表して居た所に見る如く、○○に依る突變說の主張者である。これがどうして『骨拔き』で『俗惡化』で『日和見主義者』なのか。高橋氏と北原氏とどちらが『骨拔』で『俗惡化』で『日和見主義』であるか、そんなことは分かつたものぢやない。お互の今迄の殊に今後の行爲に照して見るより他はない。

第二に高橋氏は北原氏を以てテンデ、マルクス國家理論が分かつて居ない人間の樣に取扱つてるが分つて居ない人間が『即ち彼等に依れば、國家はエンゲルス說の如く搾取關係の社會的強制機關でもなく云々』といふであらうか。(『マルクス主義』七月號北原氏論文)。自分達許りがマルキシズムを分つて居るが如き口吻し、暗に社會主義者間に於ける特權階級を以て任じて居るこの種の人達の心の程には、私は嘔吐を催したくなる。

第三に、北原氏は高橋氏の突いて居る此點に就ては次の如く斷つて居るのである。『私も彼等と同じ樣に、國家の本質を地域社會の支配關係それ自體と觀るのであることに關しては別に精細なる論述を試みなければならないが、要するに國家の本質を斯く見ることが毛頭唯物史觀に抵觸するものではないと私は信ずる。然し私のこの文章の目的は國家社會主義の痛擊であつて、オルソドックス、マルキシスト諸君に依る除名の決議に答ふるものではないから、こゝでは一切其點に關する議論を省略する』と初めから斷つて居るのである。それを殊更この點を問題にして(それも北原氏の議論の本論にマルキシストとして反駁すべき點がないから兎も角)云々することは卑怯といふものじやあるまいか。一體論爭するなら論爭するで、相手の云ひ分もよく汲み取つてやらねばならない。それと相手が前以て斷つて何等論證にまで及んで居ない所を意地惡くやつつけるとは、劍道試合に於て相手が竹刀をとらない中に竹刀をとつて相手を撲るに等しき卑怯ではないか。

然し如上の緒點よりも、尙根本的重大な問題がある。

四

北原龍雄氏の『マルクス主義』七月號に於ける該論文の中樞點は要するに、『社會主義の實現には何等國家(權力)を必要としない』と云ふ點にあつた。然してこれは全く非マルキシズムである。マルキシズムでは社會主義實現に國家を必要とする。そして社會主義が完成されてから國家が『夫自身死滅する』。隨つて北原氏の所論をマルキシズムの立場から反駁するなら此點を反駁すべきである。(廿四頁へ)

「討閥」に就いて　所謂第三者に問ふ

藤江俊夫

僕達は、八月以向、討閥運動なるものを起して、社會運動から、妙な障壁を叩き破らうと努力してゐる。それに就いて、色々批難する者もあつたが、僕達の精神に共鳴して呉れた青年も無數であつた。せめて僕達の社會からだけでも偶像崇拜（若しくは利用）や事大思想は一掃したいものである。

尤も僕達は先輩を尊敬する。永い間苦しい戰ひを續けて呉れた功積に對しては頭が下る。尊敬するなと言つたつて尊敬せずには居れぬ。けれども、いくら先輩だ功勞者だからといつても、その男が、後輩の眞劍な仕事に水を注したり、邪魔をしたり若くは排斥したりしたら、默つてはゐられない。反抗する。これは當り前だと思つてゐる。ましてその先輩なる男が、つまらない人物であるため、取り卷連の持つて來る噂（大低は惡口！）をそのまゝ信じて、一緒になつて同志の上に排斥壓迫を加へらるゝとしたら、僕達は、その一團に閥といふ名稱を附して徹底的に之を打破せねばならないと思ふ。僕達一個人の利害や感情から同志を排斥する事は、見逃しならぬ罪だからである。こういふ事が默認されるならば、僕達は何時までも到底結束なぞといふ事を望まれないからである。それからその妙な一團が、虛勢であるにもせよ、兎も角、社會運動の中で有力だと認められてゐる人々であつた時にはその連中に惱まれたら最後、仕事が出來なくなつて仕舞ふ。つい自棄自棄になる。逃避ならまだよい。曲る。反動になる。僕達はその實例を澤山知つてゐる、こんなのを稱して僕達は閥の專横だと呼んで居るのだ。當の閥の方では俺は知らないと空嘯くかも知れないが知つてやらうと知らずにやらうと、被害者に取つては問題では素よりない。毆られたから毆る若しくは永久に毆られまいとする。これが被害者の切實の願ひなのである。

所で、閥に贊成するもよし、我々の討閥軍に味方するも結構であるが、そのどちらにも味方せず所謂第三者と稱するものが在る。おまけに變な忠告までする。僕等はその第三者の心理が解し兼ねるものだ。所謂第三者の僕達に『忠告』する言葉は一樣に『同志打ちは宜しくない』といふのだが、僕達が如何に血氣に逸る青年だからといへ、何で『同志打ち』がしたいものか。それ所か、僕達は、同じ社會運動の戰線に立つ同志相互の間に本當に『タワリツシ！』と呼ひ合へるような親しみや情熱が欲しくてならないのだ。せめて同志だけでも、何の障壁も設けずに、心から結び合つて行きたいのだ。家鄕を離れ、壓迫を受け、貧乏ばかりし通して來た僕達には、これ以外に、荒み切つた心を醫する途がないのだ。閥を討たうといふ切實な要求も、畢竟するに、妙な喧嘩を除きたいからではないか。だから『同志打ち』の張本人は、閥を討たんとする僕達でなくてかへつて閥を作つてゐる連中こそそれではないか。それを、閥の方には一言の忠告らしい忠告もせずにゐて、閥の弊害を痛切に感じて之を打ち倒さうとする僕達にのみ『同志打ち』の罪を着せるとは何事である。それでは、第三者でも中立でもない。明かに、閥の味方ではないか。若それが仲裁だとすれば、一方の男の兩手を掴んでおいて他方の奴に撲らせるといふやり方ではないか。仲裁の形式はあつても、その實、片手落の憎い仕打である。僕達は、同志が仲善く手を握り合ふことを眞に希望するが故にこそ、障碍物を取り除かうとするのである。改めて僕等は第三者と稱する人々（眞の意味で、そんなものはあり得ない）からの討閥に對する嚴正批判を聽きたいものである。

『進め』宣傳隊からの日報

裏日本から

辻山・樋口

福知山驛に着。案外淋しい町だ。米子に歸る湯原氏とこゝで別れ、二人は町を歩いて見た。煙都大阪の關門梅田の雜踏と人波の中で見送つてくれた佐藤君や岡本君の顏がまだ眼の底にちらついてゐる。漸く探しあてた安宿に落着く。夜、我々の最初の宣傳を街頭演説に依つてした。町内二箇所に於ける街頭宣傳によつて「進め」を三十部近く賣つた。（九月六日）

▲

地方宣傳の第一夜を薄暗い安宿の片隅に明かす。目を醒ませば八時近く。朝飯を濟ませて早速ビラを町の電柱、共同便所等に張り、宿に歸つて一息ついてゐる處へ警察の犬がやつて來た。ビラを張るのは違反である。路傍演説は交通の防害であると盛んに吠付くも柳に風。第二日目の夜は三箇所にて辛じて十部餘を賣つたのみ。（七日）

▲

午後綾部に向ふ。八時着。恰ら空腹なりしため町はづれにて冷うどんを二人で一杯づゝ喰ひ、飢をしのぐ。邊り既に闇し。提灯屋にて小田原を一つ買ふ。價四十錢也中には殘餘はや三十八錢也乞ひて三十八錢にさせ。其上蠟燭一本、マッチ一つを寄附させ、綾部にて三箇所街路に立つ。「進め」及びパンフレットを十三四部賣る。こゝを十一時に立ちて舞鶴に向ふ。途中野原に於て出發以來最初の露營をす。（八日）

▲

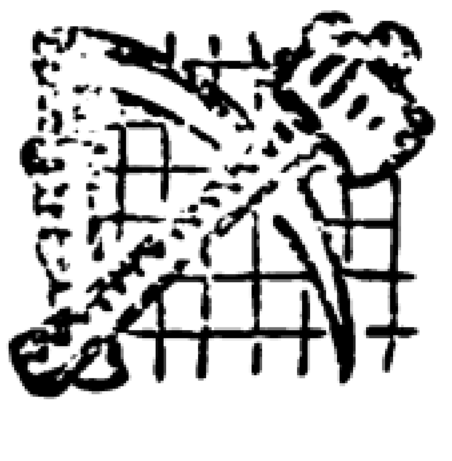
いれがての一夜を明かし、舞鶴の町に着いた頃ははや黄昏時、宿に入りて旅の疲勞を休めてゐる時。秋雨沛然として來る。夜無爲（九日）

▲

午後附近の一同志を訪れたるも不在。夕、警察に「進め」全部を押收さる。止むなく携帶のパンフレットを賣れ共僅かに十部餘（十日）

▲

由良に着く。由良は有名なる紀跡なれど至つて淋しき部落なりし爲め、演説は出來ず。この時再び雨に襲はれ、一旅館に入る。懷中十錢を剩すのみ（十一日記）



地方通信

■街頭の戰線へ立て

兵庫縣　物部　明

資本主義社會の行詰りと共に無産勞働階級の新興勢力の擡頭は社會進化の必然的法則であり又阻止すべからざる時代の潮流である。

從來ブルヂョア階級がプロレタリヤ階級に執れる暴戻なる態度に對する反抗の意志表示たるストライキは單に賃金値上とか待遇改善等の微温的なものでなく、今や資本對勞働の階級鬪爭を意味してきた。

然し乍ら昨今の凡ゆる方面の爭議の如きは勞働階級は無慘にも幾多の犠牲者を出しつゝ而も秋風××を喞つ慘敗の結果を招き、更らに一般の民衆からは公衆の敵?なりとして猛烈なる攻擊を受け、彼等ブルヂョア階級の辛辣なる迫害の下に壓せられ彼等をして凱歌を揚げさしてゐる。

勞働階級が愈々爭議を起こし要求の貫徹を期しつゝ有り乍ら其の目的を達し勝利を收めし事は殆んど數指を以つて數ふるに過ぎない。

勞働階級が奪はれたる生存權と蹂躙されたる自由を奪還すべき正義の戰は何故に斯の如く脆くも慘敗するかを、吾々は深刻に觀察しなければならない。

先づ社會主義者と民衆との關係を檢して見よう。

社會主義運動は大衆を沒却しては何等の意義も有しない、然るに從來民衆に對する吾々の態度は机上からペンを以つて、階級鬪爭の理論を敎へ、そして其の進む可き道を示してゐた。即ち實際の戰線に起たずして民衆を指導し、發せるのみであつた

或は云はん『今日無産勞働階級は既に社會的、階級的に覺醒し、最早確固たる組織的團結を爲し、自己の進むべき道を知つてゐる』と。

迷莫！階級意識に覺醒し、組織的に團結をしてゐる筈の勞働階級は一朝爭議に際すれば何故慘敗に次ぐに慘敗を以つてする憂き目に遭遇してゐるのであらうか。

眞に階級意識が判然として居ればブルヂョア階級が如何なる强壓政策を講ずるとも、斷じて屈するが如き事は無い筈である。

即ち現在我國の勞働階級は少數の自覺分子を除いた大多數が今尙依然としてブルヂョア意識に支配されブルヂョアの奸猾なる政策に欺瞞され、自己の階級自己の境遇に充分目覺めてゐないと見るの外ない。

見よ!!未だ組合を有せざる勞働者が營々として長時間の○○に惱みつゝあるを。

起て全國の同志諸君よ！

諸君は最早慢然と机上でペンを走らす時代ではない寸時も早く大衆の鬪爭圏内へ潜入し良く指導し、良く訓練し、或は未だ醒めざる迷羊を覺醒せしむべく街頭に於いて奮鬪すべき時である

■搾取の名譽

高知　沼　哲　兒

相變らず○○○○の現代社會の○○○をまざ〳〵と見せ付けられて呻吟して居る事だらう。

搾取者、被搾取者の間隔が比較的少ない高知ですらかりなの者だから――

先日僕等の村の地主山田の小倅が歸つて來た。

奴、早大とかへ行つて居るが矢張資本家の坊つちやんだ。

東京から土産物も大部買つて來てね、(我々から搾取した金だ) 村の者に與へたので、大評判だ。

『山田の坊樣はなかなか考へ者だ』『地主の坊樣は感心だ。大學校へ行つて居られる』『じつかり者の山田の息子さまは今に大した出世をするぞ』

こんな馬鹿氣切つた話を聞かされる俺は全身の血が一時沸騰してくるのだ。それに奴は、村長の娘と婚約が成りかけてゐる

之も土産物と角帽の功徳かナ

毎日の樣に角帽の奴が稻刈の俺等に頰笑みながら村長の家へ―お百度だ。(但し俺の無敵でも何でも無い事を附記して置く)

その度に俺は資本制度の○○○を感じ自己の雙腕に重大な使用を痛感し得るのだ。今後お互にやろうぜ、○○○○○の爲めに…………

■しほんかまもり

和歌山　中口さよ子　(十一才)

ああなさけない私等は
こんな日本にうまれたが
としやのやうなよい國に
私もいつてすみたいわ
せいりのわるい日本さん
どこの國にもあらはれる
しほんかどもはわれ〳〵を
むちやにつかつてばかにする
○○○○○○○○○
○○○○○○○○○
お金のあるときせんそうを
しようしようらといひまくり
かつたと思つてじまんして
今はお金がなくなつて
いるのは日本です
○○○○○○○○○
せいりのわるい日本さん
しほんかまもりの日本さん

■反動の玉子を勦滅せよ

神戸　鳥原龍之助

近頃、むやみにボーキスカートとか少年義勇軍とか云ふ樣なブルジョアの鼻垂れ息子が集まつた一團が簇出して來た。

それがタダの遊び事なら俺達は問句は云はねが、增長しやあがつてお可笑な『罷業破り』の眞似事をし出す段になると默つちあゐられねゑ。モットモ其後ろには糸を操つてゐるものがある事は確だ。俺は青年團の辯論大會へちよい〳〵顏を出して邪魔をする『演說會破り』だ最も自稱だ。此の頃いやに喧嘩して見たくつてしようがねんだ。勞働團体、警察なら持つて來るだ。兎にも角にも鬪爭だ喧嘩だ神戸つ子の勇み肌をお眼にかけよう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

研究

資本主義より共産主義の過渡時代

ニコライ・レーニン

一、マルクスの言

マルクス曰く、「資本主義社會と共産主義社會との間には、前者より後者への革命的過渡時代が橫はつて居る。而して、この時代に應ずる政治的推移の段階並にこの時代に於ける國家は、プロレタリアの〇〇的獨裁政治でしか有り得ない」と。

二、プロレタリア獨裁

このマルクスの結論は、近世資本主義社會に於てプロレタリアに依つて演ぜらるる役目の解剖、並に現社會の發達の事實、及び無產者階級と資本家階級との相反的利害の到底相容るべからざるものたる所に、立脚して居るものである。

プロレタリアはその解放を得んがためには、資本家階級を〇〇し、政權を〇〇し、〇〇的獨裁政治を開始しなければならぬ。資本主義社會より共産主義乃至共産主義社會へ向つての推移は政治的推移の時代無くしては到底不可能である。而してこの時代に於ける國家は、唯一プロレタリアの〇〇的獨裁政治有るのみである。

三、デモクラシーとの關係

然らば、この獨裁政治とデモクラシーとの關係如何。

かの「共產宣言」の中には簡單に、この二つの思想は併行して置かれてある。

卽ち曰く「以上に於て明かなる如く　勞働者〇〇の第一步は、プロレタリアをして支配階級の地位に上すこと、則ちデモクラシーの戰ひに勝つ事である」と。

而してこれは、則ち資本主義より共產主義への推移の間に於てデモクラシーは如何に變化するかは、先に述べた所のマルクスの結論（プロレタリア獨裁の結論）の立脚せると同一の根據よりして、もつと正確に說明することが出來るものである。

四、資本主義國のデモクラシー

資本主義發達に最も有利なる狀態の下にある資本主義社會に於ては、デモクラチツク共和國の形態で多少完全なデモクラシーが存在する。然し乍らこのデモクラシーは、常に資本主義的搾取の狹い構造に依つて拘束されて居る。隨つて實際の所は、それは單に少數者にとつての、單に有產階級にとつての、單に金持にとつてのデモクラシーに過ぎない。資本主義社會に於ける理由は、かつて古代ギリシヤ共和國に於けると殆ど同樣である。卽ち奴隸所有者にとつての自由である。近世賃銀奴隸は、資本家の搾取の爲に、「デモクラシーに關はつて居られない」程「政治に對して時間の無い」程缺乏と貧乏とに壓し潰された狀態にある。卽ち人民の大多數は公の政治生活への參與から遮斷されて居るである。

五、獨逸の實例

この言の確かなることは獨逸の實例に依つて最も明瞭に立證される。獨逸に於ては合法運動は、甚だ長い間卽ち殆ど半世紀（一八七一年——一九一四年）に亘つて、繼續し且堅固に持續された。而してこの間の獨逸に於ける社會民主々義は、他のいづれの國に於けるよりも遙かに勝つて、所謂「合法」を利用することが出來た。そして世界の他の何處に於けるよりも多くの割合の勞働階級を政黨に組織することが出來た。

然らば、斯くも資本主義社會に於て長い間持續し來つた獨逸の政治的に自覺的乃至活動的なる賃銀奴隸の最高比例數は幾何であつたか。實に、千五百萬の賃銀勞働者の中、唯百萬の社會民主黨員あつたのみであり、千五百萬の中唯三百萬が產業的に組織されたに過ぎない。

六、資本主義デモクラシーのからくり

無意義なる小數者にとつてのデモクラシー、金持にとつてのデモクラシー——これが資本主義社會に於けるデモクラシーである。若しも我々がもつと綿密に、資本主義デモクラシーのからくりに注意して見るならば、到る所——所謂普通選擧の細目の中に（住宅に關する資格、婦人の除外等）、代表制度の方法の中に、集會の權利の現實的妨害の中に（公の建物は貧乏人には閉されて居る）日刊新聞の純資本主義的組織の中に等其他——あらゆる方面に於て、デモクラシーの拘束の拘束を見る。これらの貧乏人にとつての、拘束、例外、除外、妨害等は或は些々たるものに見ゆるかも知れぬ——殊にかつて貧困に陷つたことなく且つその集團生活に於て被支配階級と密に接觸したことなき人間にとつて然りである。而してブルジョア公法學者、ブルジョア政治家の十中の九は——よし百分の九十九迄は行かないとしても——この種の人間である。然し乍ら實は、總計上これらの拘束が貧乏人をして政治より卽ちデモクラシーへの活動的參加より放逐し押し除けて居るのである。マルクスはよくこの資本主義デモクラシーのこつを呑み込んで居た。彼はかの巴里コンムユンの經驗の批判の中に、被支配階級は數年毎に一回、議會に於て支配階級のいづれの特別代表者をして彼等を代表せし

め且つ壓迫せしむべきかを決定することが許されて居ると云つて居る。

六、眞のデモクラシーへの道は獨裁あるのみ

而してこの資本主義デモクラシーからは——即ち必然的に狹い範圍の、且こつそりと貧乏人を押し除ける所の隨つてその本質に於て僞善的である危險である所の資本主義デモクラシーからは『益々大なるデモクラシー』への進歩は、よく自由主義的大學教授や下層中産階級の日和見主義者が我々をして信ぜしめようとする様に、單純なる滑らかなる眞直の道を辿つては進行し得ない。否、進歩的發達は——即ち共産主義への發達は——プロレタリヤの獨裁政治を通じてのみ行はれ得る。而してそれ以外のものではあり得ない。何んとなれば、それ以外に搾取資本家の抵抗を擊ち破る所の何人もなく、且如何なる方法も存在しないからである。

八、强制力の必然性

プロレタリアの獨裁政治は——即ち支配階級紛碎の目的を以て被支配階級としての前進守勢—の組織は——單にデモクラシーの擴大を齎すだけでには止まらない。デモクラシーの無限の擴大と共に——と云ふのは最初貧乏人のデモクラシー、人民のデモクラシーとなり、即ち金持共のデモクラシーでなくなる——プロレタリアの獨裁政治は又彼支配階級のために、搾取者乃至資本家の拘束の繼續を齎す。我々は人類を賃銀奴隸より解放せんがためには彼等支配階級を〇〇しなければならぬ。彼等の抵抗は〇〇〇〇〇〇〇〇〇されなければならぬ。壓迫の存在する所には又暴力の存在しなければならぬこと、而してその間何等自由又はデモクラシーの存在し得ないことは明らかである。

九、過度時代のデモクラシー

エンゲルスは彼のベーベルへの手紙の中にこの點を堂々と云ひ表して居る。曰く、『プロレタリアは國家を必要とする。自由のためにではない、相手を〇〇する目的のためにである。而して人々が自由を語り得るに至る時は、〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇』と。國民の大多數にとつてのデモクラシー、則ち國民の搾取者、先驅者を强制力に依つて壓伏すること——即ちデモクラシーより彼等を放逐すること。これが資本主義より共産主義への過渡時代に於て我々が見るであらう所のデモクラシーの變化である。

十、眞のデモクラシーとその自然死

共産主義社會に於て、資本家階級の抵抗が遂に全く〇〇され資本家階級が全く〇〇し、そこには最早何等の階級の存在せざるに至つた時に初めて——即ち社會全員の間に、社會的生産機關に關して、何等の差別の存在せざるに至つた時——その時に初めて『〇〇〇〇〇、人は自由を語り得る』。その時に初めて完全なデモクラシー、何等の例外なきデモクラシーが可能であり實現せられる。その時に初めて、デモクラシー自身が次の簡單なる事實に原因して自然化し初める。即ち、資本主義奴隸制度及び資本主義搾取の無數の恐怖、殘酷、不合理、醜行より解放せられて、此處に人々は次第に、數世紀の間知られて來た所の且つ數千年の間說教の中に繰り返されて來た所の社會生活の根本原則の觀察に慣れて來ると云ふ事實に原因してゞある。彼等は何等の强制力、何等の〇〇、何等の〇〇、而して所謂國家と呼ばれる所の何等の特別强制機關なくして、彼等の社會生活の根本原則を遵守する様に訓練されるに至る。

この場合、『國家の自然死』なる表現は最も適切に當つて居る。何故ならばそは其の過程の漸次的、自然的性質をよく表はすものであるからである。而して習慣のみが斯る結果を齎すことが出來、且正しく齎すであらう。何故ならば、若しそこに何等の搾取さへ無ければ、即ち憤激を發生せしめ、反抗と叛亂とを呼

大▲烘▲社▲の出生

温い黒潮の流と蜜柑で知られた我和歌山に大烘社が生れた。生みの親は『進め社』である。

思想團体の皆無であつた和歌山にこんな社が生れたのは今まで世嗣がなかつた家に始めて子が出來た様な狀態だ。働く者飢ゐる者〇〇の血の漲る者擧つて入社せられよ。

今まで鏡の如く靜かで有つた池面に石は投ぜられた、波紋は必ず大きいに違ひない。亂打する警鐘に眼覺められよ、然らずんば怖を百年の後に殘す事を悟られよ、一度高く宙天に〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇降さないといふ事を一言附加しておく

（和歌山支局　藤田周一郎）

狽

九月一日。南葛の同志の追悼會をやらうとすると、案の條、其の筋の眼が、數日前から光つてゐた。當日の物々しさといつたらない。會場の一丁程手前、數十名の官私服の巡査が、官制青年會村長の家に出張してゐる騷ぎ。

その前を通るや、直ぐ檢束される。警察へ行くと、先着の同志が〇〇歌を高唱してゐた。一人の私服が『隠れ場所』を僕に聞く。誰れが知らせてたまるもんか。笑止千萬だ。

◎

追悼會とは世にいふ法事だ。法事をするのにあの位、官憲が狼狽せなけりやならないのか。

だが、あいつ等のやることは皆な泰山鳴動鼠一匹だ。あの位狼狽して、あの位大騷ぎをやつて、所謂不穩分子たつた四人の檢束とは、餘りに呆氣なかつただらう。（大烘社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

び起し、壓伏さるゝを要する所の物さへ何等無ければ、如何に容易に人々はその共同生活の必要原則を遵奉するに慣るゝに至るかは、我々が日常我々の周圍に無數に見る所の事實であるからである。

十一、國家變遷と第一期國家

之を要するに、資本主義社會に於ては、吾人は切り詰められた、哀れな、僞のデモクラシー即ち金持乃至少數者にとつてのデモクラシーを有する。プロレタリアの獨裁政治、共産主義への過渡時代が初めて、人民乃至多數者にとつてのデモクラシー・を興す。それと同時に搾取者より成る小數者に對しての必然的○○を齎す。○○○○のみが眞の完全なるデモクラシーを與ふることが出來る。而してそれは完全であればある程速かに不必要のものとなり、それ自身自然死を遂げる。

換言すれば、資本主義の下に於て我々は本當の意味の國家を有する。即ち他階級に依る或る階級壓迫の(この場合は小數者に依る多數者壓迫の)特別機關を有する。この小數搾取者に依る多數被搾取者の組織的壓迫としての斯る任務を有効に遂行せんがためには自然に最大の壓迫の兇猛と野蠻とを必要とし、流血の海を必要とする。有體奴隷制度・農奴制度、賃銀勞働制度のいづれにあつても、人はこれを通じてのみその進路を定めねばならない。

十二、第二期過渡時代の國家

更に、資本主義より共産主義への過渡時代に於ては、壓迫は尚必要である。然し乍らこの場合の壓迫は、多數被搾取者に依る小數搾取者の壓迫である。壓迫のための特別機關、特別機械——即ち『國家』——は必要であるが、然し乍らこの時の國家は過渡國家であつて、本來の意味に於ての國家ではない。

何故ならば、昨日迄賃銀奴隷であつた所の多數者に依る小數搾取者の壓迫は、比較的甚だ容易な、簡單な且自然な事實であつて、從つて奴隷や農奴や賃銀勞働者の勃興を壓迫するよりは、遙かに流血の慘酷く、又人命を損ふこと遙かに夥いからである。且この場合は、國民の壓倒的大多數に對してのデモクラシーの普及に他ならないが故に壓迫のための特別機關の必要は次第にその存在を失つて來る。搾取者にあつては、壓迫の任務を果す爲め最も複雑なる機關なくしては人民を壓迫することが不可能であることは論を俟たないがこれが人民にあつては、甚だ單純な『機關』を以てしても——即ち殆ど全く何等の『機關』なく、又は何等の特別の仕掛なくしても——武裝大衆の單純なる組織(少しく豫想して言ふを得ば、勞働者及び兵士の代表會議の如き)に依つて、搾取者を○○することが出來る。

十三、第三期國家の自然死

最後に、共産主義の下に於て初めて、國家は全く不○○のものとなる。何んとなれば、階級的意味に於ても、又人民の或る特定部分との鬪爭の意味に於ても、そこには最早壓迫すべき何人も存在しないからである。我々は空想家ではない。隨つて、個人に依る放逸の可能性乃至可避性、同時に斯る放逸を壓迫すること必要を、毫も否定するものではない。然し乍ら第一に、これがために何等制止の特別機關、特別機械を必要としない。斯の如きは、今日の社會に於ても文明國民の如何なる群衆でも喧嘩の仲間を引き分け、又は婦人の暴行されるを許さないと同樣に簡單に且容易に、武裝國民其自身に依つて解決される。而して第二に我々は、社會生活の原則を冒す所の放逸の社會根本原因は、大衆の搾取、彼等の缺乏乃至貧乏に在る。ことを知つて居る。隨つてこの主動原因の撤去と共に、放逸の必然的に『自然消滅』し初めることは明らかである。尤も、その如何程迅速に乃至如何なる段階を經て消滅すべきかは知らない、が遂にその自然消滅するであらうことは知つて居る。而してこの放逸の自然消滅と共に、實に○○○○○○○○るのである(石川譯)

(十九頁より)

この他の事に關しては北原氏は別に何も論證を試みて居ないのだから、然るに高橋氏はこの點に關しては一言も論及して居ない。これはさうした理由だ。

これは北原氏の説を正しいと思つたが爲か、若しさうだとすると高橋氏は明らかに非マルキシストである。須からく自稱マルキシストの看板を取去つて然るべきだ。

それとも北原氏の論文を讀んでその本旨たるこの點に氣が付かなかつたのか。若しさうだとすると高橋氏のマルキシズム理解は甚だ淺薄、未だマキシズムを論ずべからずである。

又それとも、氣は付いたがこの點は北原氏はその社會學的智識を以て論證に努めて居るのでこの中樞點は避けて殊更に北原氏が斷つて居る本論外の點で揚げ足取りをしたのか。若しさうだとすると、卑怯、陰險、狡猾も甚だしいものである。

高橋氏は『私は今更にマルクス説の普及と理解とが、社會主義者の間にさへ及んで居ないことを感ずる云々』と大いに嘆いて居られるが、エンゲルスの言葉をレーニンの『國家と革命』を見てつぎはぎする事なら誰にでも出來る。さう嘆かるゝには及ばぬことだと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

フランス社會黨の回顧

鈴木茂三郎

（一）

フランス社會黨史の回顧は、小黨分立、離合集散の連鎖である。普選の布かれたのが一八七五年で、次いでコムミューンの生き殘りゲードによつてフランス勞働黨（一八七八）が成りそこから離合集散が始まつた。

フランス勞働黨（一八七八）
ゲード

社會主義勞働聯盟（一八八一）
ブルッス俗にポッシビリスト派

革命黨（一八九〇）
アルマン俗にアルマニスト

革命社會黨（一八九〇）
ヴァイアン俗にブランキスト

獨立社會黨（一八九二）
ジョウレス、ミルラン等

最初の大同團結は一八九六年で五團體の總委員會の成立が一八九八年であつた。ミルランの書き下ろした政綱は、一、適法の手段即ち投票による參政權の獲得二、社會熟成の時期をまつて生產分配手段の國有三、勞働者の國際的協力の三つである。

最初の分裂は一九〇一年のリヨン大會であるが　一八九九年にも、ワルデック・ルーソーの保守黨內閣にミルランが入閣したことによつて、合同破綻の危機がかもされたが、ジョウレスの「異常なる雄辯」は、からくも喰ひ止めたのである。

第二回の合同は一九〇五年で國際勞働黨支部としての、フランス社會黨の名で出來た。前年アムステルダムに開かれた、國內一致一黨主義の刺戟を受たからである。

一九〇九年ブリアン內閣のとき、アルベルトーマが、更に右翼の自由主義諸派との合同を策したが、それは本年の總選擧にブロック・デ・ゴーシュが、うまく物にならなかつたと同じ結果に終つた。

次いで起つたのは分裂である一九二〇年十二月ツールの會議で、第三インターナショナル加盟問題で二たつに割れた。プロッサール、ロリオ、カシアン、レヴィーの多數派ボリシエヰキが去つて、ロング、ケオール、ルノードなどの少數派メンシエヰキが殘壘を固めた。

		黨員	議員數
社會黨（一九二〇）	社會黨	五萬人	五〇人
	共產黨	一三	一三

分裂前の一九二〇年二月ストラスブールの會議で修正採決された政綱はかうである（社會改造に關するもの）

高率の戰時利得稅、資本課稅租稅の累進的增加、奢侈品の生產手段の國有、集中的大企業に國家の干涉、鐵道、船舶鑛山、水力、銀行、保險の國家又は公共團体による統制

（二）

數字に現はれた社會黨

議員（下院）數

一八九三	四〇（左翼選擧聯盟即ち獨立社會主義聯盟）
一九〇二	一二（外に自由主義派四〇）
一九〇五	三八（黨外の社會主義者一三人）
一九一〇	七六（前同一二人）
一九一九	六八（分裂前）
一九二四	一〇二

黨員數

年	人
一九〇五	三五、〇〇〇
一九一四	九三、〇〇〇
一九一五	二五、〇〇〇
一九二〇	一三三、〇〇〇
一九二四	一五〇、〇〇〇

（三）

黨の構成を見ると單位は班で一地方に支部があり一行政區劃のうちに支部聯合がある。現在は九十五の聯合から成り、廿四名の執行委員が中央に居る。しかし構成の上に於ける勞働組合との關係は、あまり面白く無いやうだ。黨員は組合に加盟することを黨から强制されてはゐるが、組合員の黨員は極めて少い。

社會黨を支持する、といふかたちにあるC・G・Tの、アミアン會議（一九〇六）と云へば社會主義サンジカリストの戰蹟を想起せざるを得ないが、それにはゲート派が敗れた。爾來一進一退、ふらついてゐる。一九一八年に「最低要求の宣言」を出て政治運動に頭を、もたげたかと思へば、一九二〇年のオーレアン會議でアミアン會議の決議に復歸した。ともかく一九一九年のリヨン會議の決議「一般的同盟罷工から發展する〇〇〇〇の、實際の試煉には失敗した一本の綱を、未だに握つて離さない。と云ふ組合の狀態は、C・G・Tのことは別として、それは社會黨發達の障害をなしたことは爭はれ無い。

（四）

社會黨系を中心とする離合集散は、ブルジョア自由主義との妥協抱合である。これがいけなかつたと、カシアンも云てゐる。捨てた女房に未練を殘すやうな、燒けぼつ抗に火のついたやうな、社會黨のこれまでの、あまりに長過ぎる自由主義との添ひ寢が、勞働階級を惰落させ失望させ、橫道へそらせたことに疑ひ無い。それは社會黨の責任にある。

しかし社會黨のために辯ずるものは、フランスの社會構成が小ブルジョアを中心に出來てゐる。人口の四割一分が農民であつて、男の地主二百八十七萬人女地主二百三十萬人に對し、農業勞働者は男二百四十萬人、女八萬九千人で小地主が多い產業に於ても獨立生產者八百五十萬人に對し被雇人は千二十萬人に過ぎない。と云ふ其のことは小ブルジョア思想の優勢なる所以で從つてかゝる中心勢力との妥協抱合の必要已を得なかつたとなす。或はさうかも知れぬ。けれ共一方に於て、國富の八割三分を一割三分の小數の人口によつて獨占し、五割の多數人口が僅かに二分の國富を分割する事實、九百三十萬人の工場勞働者と、三百三十萬人の農業勞働者の勢力を無視したとの非難も免がれぬ。

それはとも角、春の選擧戰に於ける社會黨は、共產黨の提案なる勞農聯盟を拒絕はしたが、選擧政策としての共同戰線は張つたしエリオー內閣への入閣を拒んで、吾黨單獨內閣を次ぎの機會にまつつもりであらふ。自重か熟柿主義か、いづれにしても無產大衆の信望を取り戻すには遲過ぎる（九、一〇）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

國家意識と階級意識

佐藤光敏

人間には意識と云ふ理智的な叡智が絶えず頭腦の中に存在してゐる。それは個人的な意識もあり、社會的な意識もあり、又種々な複雑した意識を有つてゐる。彼が今或る行動に對して『失策つた』と云ふのも意識であり、ものを失つた時『惜しい事をした』と云ふのも意識であるが而し之れは個人的な一時的の意識とでも云ふのであつて、永續的の意識ではないのである。それは單に感情の尖端を走つた樣な淡い意識に過ぎない。そしてそれは純然たる個人の問題であつて社會的關係を成立しない。又、或る武士の子息が他の武士によつて自分の親を殺害された場合、子息は復讐心を意識する『よくもやりあがつた。覺えてゐろ』と云ふ意識は自分が仇敵を討つ迄、持つてゐる意識である。が而しそれも仇敵を討つて了へば後は自然と其の意識も消滅して了ふのである。

以上は皆、個人的な意識の例であつて是れに反して、或る外國から自國を襲撃され、自國は是れが防禦の爲に戰つたが、戰ひ敗れて降參した時、『残念だ！此の復讐はキツトして見せる』と云ふ時には其れは單なる個人の問題で無くなつて歴らかに社會的の問題となるのである。而し是れ等も次の戰ひに於て復讐した場合『復讐してやつた』と意識す。而し復讐された國は復讐されたと意識すると共に『よし最う一度勝つて見せる』と言ふ具合に復讐か復讐を胎んで果てし無い國家的な意識を植付ける事になるのである。私の言ふのは此の國家的な意識である。

『人類の歴史は戰爭の歴史である』と誰かが言つた。成る程世界各國の歴史を見ると總てが戰爭の歴史である。が、而し見逃してはならないのは國家的鬪爭の中に人類の社會的關係が成立て以來絶えず續いて起つてゐた鬪爭がある、戰爭があつた。それは國家內の階級鬪爭であつた

『從來一切の歴史は階級鬪爭の歴史である』と云ふ共産黨宣言中の文字は寔に千古不磨の金言に違ひなかつたのである。

それと共に人類には民族的意識と云ふ本能的な『意識』があつたのである。此れは『意識』するとより『感情』と云つた方が適言かも知れない。が而し是の『感情』を『國家意識』『國民意識』と云ふように『意識』さしたものは誰か？それは『民族的感情』でも無ければ『鄉土的感情』でもないのである

日本に住んでゐる者は優艶な櫻を好む。そうして櫻其のもの々樣な優しい朗かな人情を有してゐる。是れは外國人には判らないであらう。日本人の櫻を好む心理と、外國人就中西洋人の薔薇を好む心理とは自づから別である。是は自然的意識及感情とでも言ふものであつて、何等政治的な意味はないのである。西洋人が薔薇を好むから日本人の敵である、と云ふのは所謂民族的鄉土的感情に政治的意識を植付ける事である。そうして是れが事實は實に國家意識、國民意識と言ふ漠然たる然し乍ら、統一したる意識を構成した、要素である。西洋人は皮膚の色が白い、髪の毛が赤い。言語が皆目違ふ。髭も赤い。宗教も違ふと言ふ樣に違ふが故に毛唐は敵だ。と云ふ樣に宣傳するのは確に後に糸を操つてゐる者がなければならぬ。所謂『煽動家』が居るに違ひないのである。それは主に其の國の國家機關を握つてゐる權力者なのである。權力者は若しくは權力階級は同民族及び他民族を征服して其の被征服民族又は被抑壓階級の勞働の生産物を○○し乍ら、生存して居る○○階級である。さうして其の自階級の榮華の存續の爲には總らゆる苦心、策略を用ひる。而し『最後の敵は溫情主義』であつて、權力階級たる○○階級も被搾取階級を何日迄も○○で押へるのには骨が折れる。で最後の手段たる溫情主義を取るのである。卽ち『蝦』の溫情で以て『鯛』の搾取を操る事である。

それが手段に階級的反感をば民族的感情に裝飾を施して國家意識を高調させる。國家は至尊であり、絶對である『至善至高』なぞと無暗に有難い名稱を付けたがるのが權力階級である。國家を終ひには神に祭上げて了ふ地方、鄉土、一國內の神話によつて自分達が其の子孫であり、繼承者にして了ふのが權力階級である。此の意識によつて階級的反感、階級意識を殲滅し未來永却自階級の榮華を貪ろうとするのが權力階級の絶えざる慾望である。

二十世紀の地球に突如旋風を捲起したものがある。歐洲の一角から全地球面に渡つて權力階級の心膽を寒からしめた怪物の姿は何？

資本主義の發達に伴つて一國內の社會には截然たる二大階級が釀成された。資本家階級と勞働者階級是れである。資本家は勞働者をばより多く搾取しなければ自分の懷が肥ない事を『意識』した。勞働者は資本家からより大く搾取を免れる事によりて幸福なる事を『意識』した。此の二つの『意識』は單なる一個人が掏模に活動寫眞の看板を見てゐて騙取された『意識』とは自づから別である。此の意識は全然、復讐的な關係に立つ所の相剋的關係を成立してゐる。從來迄、搾取された復讐意識現在厭應にわさぬ隷屬の反抗意識相剋的關係意識の三つは　卍巴となつて永遠に兩階級の存續する限り伴に永續するであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

議會行動に於ける マルクス主義

久保芳朗

議會運動に於ける議會主義と議會利用主義とは、近來無産階級政治運動の勃興と共に一部の政策派を以て目認する其の實は、單なる講壇社會主義者の一派に依つて、甚だ無雑作に同義語と見做されてゐる如うに、決して、議會行動に於ける表面的政策の類似を以つて、論定せらるべきものではない。

議會主義と議會利用主義とは其の理論的根據に於いて、社會進化に干する全く別個の歴史觀の上に立脚してゐる。

議會主義者に依れば、社會は連帶的にして、調和すべき有機的集團であつて、人類社會の進歩は他の凡ての有機體と等しく不可抗的自然方則である。

彼等は總ての過去の社會に於いて階級存在の事實を是認するが如く、現代社會の階級及階級鬪爭の事實を否定するものでない。

けれども社會進化の歴史は、決して、利害相反する階級間の殘忍なる鬪爭の持續ではなくて寧ろ共通の社會的理想に對する階級間の連帶的調節の記録であると信ずる。

從つて議會主義者は、資本主義から社會主義への轉化と、經濟組織の爛熟と階級間の合意と協力に依つて、實力的鬪爭を借らずして成就せしものと考へてゐる。

而も彼等によれば、此の間社會から新社會への平和的推移を可能ならしむに唯一の中間的政治形態は、デモクラシイの完成であり、議會は其の有力なる歴史的機關である。

斯の如く議會主義者の議會及デモクラシイに對する期待は、飽迄も全幅的であり且一元的であつて、議會に於て、資本と勞働の賢明なる代議員の合意と協力による所謂立憲的行動卽ち議會政策乃至は社會政策以外の手段に訴へることは、自然的進化の方則の完全なる發展を阻害する行動として排斥される。

言へ換れば、議會主義は明白に社會の〇〇的進化を追求する一切の階級鬪爭を否定し、實力的〇〇の代用として、議會主義的進化を主張するものである。

然るにマルクス主義の政治及政治行動に關する理論は、其の根底に於いて、議會主義の歴史觀を絶對に排斥する。

マルクスは、凡ての社會組織は、社會の物質的生産力の變動に伴つて必然的に進化するものだと主張することに於いて、明白に一個の進化論者であつた。

が同時に彼は次の事實を重大視する。

卽ち凡ての過去の社會は、階級敵對の社會であつて、既成組織の維持を利益とする階級と其の打破を利とする階級とが同一社會の内部に同時的に存在してゐた。

彼は此の事實を發見するに依つて、又、其利害の衝突が、既成組織の成熟に從つて益々不調和の度を增進し、到底一致すべからざるものと解することに依つて、階級間の激烈にして、絶ねざる鬪爭のみが、此の不調和を解決する唯一の手段であると考へた。

そこでマルクスの所謂社會組織の進化は、當然に此の階級鬪爭に依つて、初めて、或ひは急激に或ひは徐々に實現するものだといふことになる。

マルクスが彼の共産黨宣言に於いて、『總て、從來の社會の歴史は、階級鬪爭の歴史である』と冒頭し、更に階級鬪爭の究極の發展に關して、『そは常に全社會の革命的變革を以てか――社會の進化――又は相爭へつゝある諸階級の共倒れによつてか――社會の退歩或ひは崩壞――其の局を結ぶに致る所の鬪爭』であると言明したことは、彼が單なる不可抗的進化論を排斥するものであること、卽ち社會進化に於ける階級鬪爭の重大なる役割を明白にせるものと言はねばならぬ。

マルクス及びマルクス主義者の、社會進化の歴史は、奴隸時代から賃銀勞働時代へ、驕慢なる土地貴族の支配から、貪慾なる素町人の支配へ、平坦に開拓された『合意』と『協力』の大道ではなくて、幾多の悲壯なる階級鬪爭の連鎖に外ならぬ。

そこで資本主義から社會主義的社會への轉化も凡ての過去の社會的推移と等しく、〇〇による〇〇なしには不可能だと信ずるのである。

マルクスの階級的社會觀卽ち階級鬪爭說は、又彼の階級的國家觀及び階級的政治論として表現する。

彼によれば、國家とは此の階級的不調和の不可避性の所産であつて、國家の政治權力は社會の外に在つて、其の不調和を調節せんとする力ではなく不調和社會其のもの丶内部に存在するものである。

詳しく言へば、政治とは、社會の連帶意識に基く共通理想――正義、人道、自由、平等を追求する行程に於いて、諸階級の利害の衝突を調節せんとする超階級的強制力の働きではなく、征服階級が其の利益と特權を維持し伸張せんが爲めに、被征服階級を統制せんとする階級鬪爭其のもの丶表現である。

而も國家の政治權力は、如何なる場合にも決して、抽象的形式の下には存在しない。

それは常に政府、議會、政黨

軍隊、警察等の具體的組織の中に混成されてゐる。

從つて、階級社會の凡ての政治機關は、其の構成の樣式が如何に超階級的であるにもせよ、本質的には必ず之を所有する階級の階級的機能に外ならぬ。

資本主義の外皮が最後の破裂點にまで緊張した時に、之等の一切の政治機關が大膽卒直に平日の民主的假面を放棄して、自ら誓約する純粹なるデモクラシイを蹂躙することは、最も適確に豫想されるものゝ一である。

此の場合、マルキストは斷じて、中間的政治形態としてのデモクラシイの安定を信じない。

抑々議會主義者の所謂議會政策乃至は社會政策とは、畢竟するに資本階級の自己保全を目的とする自己調節の作用であつて、それは自ら一定の限度を有する。

故に議會政策又は社會政策は其れ自體プロレタリヤの解放ではない。そこに無產階級政治運動の危險說が唱へられる。しかし自己保全の爲の此の聰明なる自己調節の作用は其の反面に於て、自己否定への反作用を伴ふことを忘れてはならぬ。

そこで、所謂純粹なるデモクラシイの名に於て、日に逼迫する階級間の直接的衝突を廻避せんが爲に、無產階級の政治的協力——其の實は籠絡であり、妥協である——を要求する資本階級の政治的自制即ちデモクラシイは、多くの場合其の將來に廻避すべからざる直接的鬪爭への發展である。

詳しく言へば、プロレタリアが、政治的籠絡の手段として與へられた各種の立法的保證を政治的鬪爭の武器として私用することに依つて、より本質的な自制を強要すべき政治勢力となり、やがて、單なる民主主義の領域を脫して、明確に社會主義の理想に進むに從つてデモクラシイの調節的機能は益々局限されて遂には全く硬化せざるを得ないことになる。

それは、政界の階級的分野に於て、資本主義黨と社會主義黨との二大陣地の分裂に現はれ、階級間の曠穴も又同く伸縮、調節の餘地なきまで硬化する。

そは即ち純粹なるデモクラシイの衣の下から、ブルジョア獨裁の鋭鋒の暴露される時明である。

之を政黨の離合分角の樣式に於いて考察すれば、更に明瞭である。

政界の階級的單純化の傾向は資本主義黨と社會主義黨の中間に介在して、純粹なるデモクラシイを標榜する自由主義乃至は民主々義黨をして、否應なしに左右の孰かに所屬を明白にせねばならぬ破目に陷れる。

此形勢に臨んだ中間黨は、能ふ限の左翼政策を掲げて、新興の政治勢力と結び、既成勢力の維持を伸張に腐心するであろう けれども中間黨の左翼化は本質的に一定の限度がある。

此の中間黨の自己保全の爲めの左黨支持は、左黨の勢力をして、いよ〳〵強大ならしめ、勢力の伸張は又當然に左黨の社會主義的明確を促進する結果となつて、遂には全く同伴する能はざる最後の地點にまで到達する。

即ち中間黨は中間的存在の理由を失ふの時期に達するのである。

そこで彼等に殘される命題は本來の地金をむき出して資本主義黨の指導の下に保守的陣地を堅めるか、然らざれば自から分解して社會主義黨の内部に溶け込むか、孰れにしても崩壞の運命の免れぬことは、各國の民主黨乃至は自由黨の動搖煩悶によつて、充分に物語られてゐる。

中間黨としての自由主義の運命は、又同時に彼等の信ずる中間的政治形態としてのデモクラシイの運命である。

資本階級の自己保全の爲に政治的自制即ちデモクラシイは、其の擴大の過程に於て、自己否定の無產階級的勢力を助勢しつゝ、其の最後の防禦線に於て、回避せんとした直接的鬪爭をより強大なる組織的勢力として迎へねばならぬことになる。

それは、デモクラシイの安定ではなくて硬化であり、完成ではなくて否定である。

然るに議會主義者は、飽迄もデモクラシイによる平和的推移を夢想して、尚も議會の内部に此の硬化せる階級間の調節を試みるであらうが、彼等の聰明なる說が果して、資本階級をして自己存在の理由の消滅を悟得せしめ、科學的眞理の前に無抵抗の大往生を遂げしめ得ることは絕對に信ぜられない。

彼等は、新社會への推移をデモクラシーに期待し、あたかも議會の全能を確信することに於て、好奇に値する一個の宗教的狂信者と言ふべきである。

レーニンは冷笑して言ふ「ブルジョアの獨裁とプロレタリアの獨裁との間には、中間の立場はない中間的なる第三の立場——デモクラシイ——を夢想することは、畢竟するに中產階級の反革命的歎聲である」と。

かくの如く、議會主義とマルクス主義の歷史觀の相違は其の運動の究極に於て、一はデモクラシイの擴大と安定の上に新社會の基礎を求め、一はデモクラシイの否定即ちプロレタリアの獨裁を實現せんとすることに於て、全く相背馳する二個の原理たることが明白にされる。

之を要するにマルクスの所謂政治行動とは、無產階級による政治權力の獲得を目的とする最も典型的な階級鬪爭そのものであつて、それは究極の發展に於てプロレタリアの獨裁に集中せらるべき一切の階級鬪爭の單一的組織である。

從つて彼によれば、議會は斷じて階級調節の機關ではなく、工場と田野と街頭と全く同樣に一個の有力なる階級鬪爭の舞臺に過ぎない。

即ちマルクスは言ふ「一切の階級鬪爭は政治鬪爭である」と。

（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近世社會主義史（二）

—一四一八年のフランス社會主義—

—初期のイギリス社會主義—

春田正

ルイ・ブラン

前に述べた如く、サン・シモン及びフーリエの社會主義は概して想像的であり、空想的であつて、當時の實生活とは可なりの懸隔があつた。が、ルイ・ブランに至つて、其の運動はフランスの國民史と實際的に接觸するやうになつた。

ルイ・ブランは一八一一年マドリッドで生れた。彼の父は其處でスペイン王ジョセフの下で檢閲官をして居たのである。彼は後パリに於いて新聞記者及び著者として著はれた。

ルイ・ブランの競爭制度に關する意見は彼以前の社會主義者と同じであるがその社會改造に當つて、彼は彼以前の社會主義者の樣に精神方面と物質方面とを別々に考へることを否とし、此の兩者の調和的發達を其の目的とした。然し乍ら如何なる社會的改革と雖も政治的改革を待たなければ出來ないといふことを彼は看破した。彼の此の實行方法こそ眞に我々の興味を誘ふものである。吾人の選ぶ可き第一は目的であり、第二は其の手段である。吾人が社會改革を斷行しようとするならばどうしても政治權力を吾人社會改革者側に得なければいけない。斯くて彼はその目的達成の最初の條件として、普通選擧を行ひ、それに依つて國家を全く民主的基礎の上に築かうとした。而もその民主的國家の第一の義務は勞働の解放である。勞働の解放に當つて勞働階級に缺けてゐるものは勞働要具即ち資本である。故に彼は國家に依つて其の資本を支給される『國立工場』の設立を主張した。

一八四八年は革命年であつた革命運動は當時の偏頗な政治組織に反對して殆ど西及中央ヨーロッパ全般に起つた。此の年に至つて、今まで歴史の陰でばかり働いて居た勞働階級は初めて歴史の表面舞臺に現はれて、ブルジョアと對抗し直接〇〇〇として役割を演ずるに至つた。

一八四八年二月フランスの人民は當時の政治の腐敗及偏頗な選擧權を憤慨して亂をパリに起した。其の結果勝利は人民側に歸し、普選は施かれ勞働問題は政府の一大義務として認められるに至つた。此の革命の立役者は社會民主黨領袖ルイ・ブラン其の人であつた。假政府が建てらるゝや彼は勞働階級の期待を荷つて其一位置を占め、他の同志の應援を得てその抱負を實行せんとした。併し先驅者は社會進化途上に於ける一犧牲者であつた。彼の計畫の多くは公平な聽者と審判を得ずして葬られた。國立工場は其の年設立されたがそれは政府が彼の設立を裏切つて設けた改作狂文の類に過ぎなかつた。工場は單なる怠け者收容所に化け、政府は失業者に一日二ペンスを與へるために不生産的な仕事を手當り次第になさしめた。斯くして、ルイ・ブラン派の勢力は政府より徐々に驅逐され保守派の乘ずる所となつた。

ルイ・ブランは雄辯家であり熱情家であつた、併し此の大局に集散する人々を統一することが出來なかつた。

普選によつて選出された國民議會は五月に開かれたが、農民及フランスの大部分の選出議員は、パリー及其の他の工業都市の勞働階級の選出議員と意見の一致を缺いだ。彼等は假政府の一綱領としての社會民主主義を否認した。國立工場は間もなく閉鎖されたために起つたパリーのプロレタリアの反抗は六月の血腥き日を最後にカベニヤックによつて絶滅された。

斯くて、ルイブランもその餘波を蒙り、追放に會ひ多年イギリスに逃れて居たが第二帝國の滅亡後フランスに歸つた。彼が死んだのは一八八二年であつた

プールドン

プルドーンは一八〇九年フーリエと同じベザンコンで生れた。彼の父は桶匠であつた。彼は家が貧しかつたので子供の時牧夫等をして居たが、兎も角も故郷の大學を卒へることが出來た。後色々な職業を經てパリーに住むに至つた。彼は新聞記者としても國民議會の一員としても非常に活動家であつたが一八六五年其の波瀾多き生涯を終つた。

プルードンは非常な熱情家であつて、彼の言行は常に直情的であつた。そのため彼は屢々目にあつた。

彼は政治改革よりも寧ろ經濟的改革を主張とした。而もその基礎を正義自由平等の道德的感念の上に置いた。プルードンは財産に關して好んで極端な表現を用ふたが、その一般論據はマルクス及後世社會主義者の資本に對する理論と一致する。彼等の定義によれば財産及資本とは他人の勞働を搾取する力であり等價を支拂はずして他人の勞働の結果を奪ふ力である。プルードンは此等の力の廢滅を欲した併し彼は斯くの如きは社會の推移の長い、努力多い過程を經て始めて實現が可能であると信じた。從つて、サン・シモン、フーリエの如く社會はお膳立の通りに直に改良出來るものであるといふ風な考へ方を苦々しき空想として攻擊した、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彼は社會改造について推移時代と完成時代との區別を設けた。推移時代に於しは利子地代の漸減によつて、財産の權利を逐次的に廢止することを主張したが完成時代については一般的原理のみを唱へて何等の準備計畫もしなかつた。彼は非常に自由を尊重した結果無政府主義の僻論に達した彼に依れば人間の倫理的發達は遂に政府を必要なきものとする、各人は彼自身一つ〇〇〇〇〇〇、如何なる形に於いても人間による人間の統治は〇〇〇〇〇〇いふのである。斯くて彼は無政府主義の始祖となつた。

一八四八年の血腥き日以來、フランスの社會主義は多くの進取的指導者を失ひ加ふるに厳しき壓迫のため暫らくその強大であつた力を休止しなければならなくなつた。從つてパリも亦一時革命の中心地としての地位を失つた。

初期イギリス社會主義

フランスの平行せる運動に比し、イギリスの初期社會主義はまことにアッサリしたものであつた。

イギリス社會主義の元祖ロバート、オーエンは一七七一年ノースウエルス州モントゴメリー海岸のニュートンといふ村に生れた。彼の父は小さい馬具商人であつた。オーエンの學校教育は九歲で終つたが若年より彼の實業的手腕は非凡であつた。後彼は英國有數の實業家として、ニューラナークに仲間と共に紡績工場を經營した。當時イギリスは産業革命によつて産業上に著しい發達を來した。併し一方勞働階級の生活は日々窮乏と不衛生と不道徳の巷に追込まれた。オーエンの仕事は此等に對する慈善的改良から始まつた。殊に彼は年少者の教育に對して意を用ひた。

彼の意見がハッキリと社會主義的傾向をとつたのは、一八一七年下院貧民法委員會に提出した社會主義社會の計畫に始まつて居る。彼は說いだ、社會の惡化の原因は人間勞働と機械との競爭にある。故に社會惡の根原を絶滅するためには共同勞働によつて機械を征服し、此を人類幸福增進の要具として使用しなければいけない。吾人は先づ適當な地方自治體を組織して此等の理想の實現を計らなければならないと。彼は此の地方自治體の中に、實現さるべきあらゆる具體的計畫を示し其れが將來に齎すべき人類の幸福を力說した彼の此の計畫は忽ち多くの共鳴者を得た。當時の主なる新聞名士も多く彼の贊同者であつた。併し後彼が既成宗教を否定したことより端なくも國內の反感を買ひ彼の計畫は畫餅に歸したけれども彼はひるまなかつた一八二五年彼は同志と共にアメリカに渡りその計畫を實行して見たが一年ならずして失敗に終つた。アメリカより歸國した時彼はもう潤澤な資本家でなかつた。彼はロンドンにその本據を置いて熱心に社會主義の宣傳を行つた。社會主義といふ言葉は彼によつて有名になつたものである當時オーエンの說を信じて諸所に共産的試みがなされたが悉く失敗に終つた。オーエンは一八五八年八十七才で生れ故郷にその變化多き生涯を終つた。

彼の社會進化の法則を無視した性急な計畫はもとより失敗に歸したが、兎に角幼稚園創設者であり、工場勞働の時間短縮をなさしめた最初の人であり、當時最も緊急な問題となつて居た工場法の主唱者であり、組合運動者の創始である彼の功績は認めなければいけない。

一八三二年の改革條令はフランスと同じくイギリスの中流階級に政治的及社會的勢力を持ち來らしたが勞働階級は依然特別な階級として其等の權利から遠ざけられた。此處に於いて勞働者の怒はチャーチズムの運動として表はれたのである。彼等は政治改革に援けられて政治上の權利を要求したけれどもその運動を起すに至つた眞の動機及目的は經濟方面にあつた。即ち政治權力を護んとここによつて彼等の饑餓と雨露の問題を解結しようといふのであつて此の運動は社會運動史上に於いて注目に價するものである勞働者は總ての富を作る、而も其の大部分を資本家に献じ彼自身は僅に雨露と饑餓を凌ぐに足る分前を受くるに過ぎない、といふ彼等の說は後にマルクスの剩餘價値學說中に見らるゝ興味深き思想である。一八四八年彼等はその示威運動を行つた。その運動は不成功に終つたが此に刺戟されて、モーリス、キングスレー、ルドロー等のキリスト教社會主義者が立つに至つた。彼等は教壇上、雜誌、著書等あらゆる機會を利用して競爭制度の惡を摘發し、マンチエスター學派に對しては厳しく攻撃の矢を送つた。彼等は社會主義こそ社會改革に採用されれた唯一のキリスト教義であるといふ主張より倫理的精神的原則の上に勞働の協力及相互の結合による眞の社會を建設せんとした。後彼等はイングランドの北部に於てオーエン主義を奉ずる先驅者によつて始められた組合運動に加はつた。生産組合は遲々として進歩しなかつたが消費組合は間もなく非常に成功を始めた。（未完）

本號に『故國の同志の諸論文を讀みて』なる一文を、ジャバの地から寄せられた山田有美太氏は、尊敬すべき同志の一人である。今後も山田氏の如き熱心な批判を他の内外の多くの同志からも聞きたいと願つてゐる。（係）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯室

大阪進め社より

■愈々秋に入つた。淀川河畔の進め社にも秋景色が濃い、くつきりと澄み切つた秋空が編輯室の窓から限り無く展望される。ものの凋落を思わせる様なうら寒い秋風がヒユ／＼と迫る。

■過般、九月十二日米國に於ては全國一齊に「國防デー」をやつた。即ち全州擧つて「總動員」を開始したのである。そうして其れは實に氣の毒な程大失敗に終つた事を十五日の新聞に特記してあつた。軍事的行動で「平和」を維持出來るとしたら今迄の歴史は皆んな帳消しにせずばなるまい。

■十一日には我が日本に於ても日本勞働總同盟が「宣傳デー」を兼れて「非戰デー」をやつた。合憎雨で祟られたけれども雨中に「宣傳」をやつた。我が進め社に於ても、「進め」同人を「總動員」してやつた功果は少からずあつた樣である。

■それから、九月號は遂々「發賣禁止」を喰つて了つた。檢閱に檢閱を受けて、なるべく諸君の期待に背かざるべく努力した、而して大部分削つたのに殘念にも「禁止」をやりあがつた。まあ／＼今の社會ぢあ仕方がねゝ。讀者諸君も勘忍しておくんなせゝ。

■「燈下に親しむ秋」僕達も今が勉强のしごきと心得てソロ／＼やつてゐる。諸君に置かれてもそうであらうと思ふ。其處でお互に勉强の爲、諸君達と一緒にやり度思つてゐる。進め社に近い所の人、又は暇な人達はドシ／＼進め社へ遊びに來て下さい。何か地方獨特の面白い話もあるであらうから。

（佐藤）

東京進め社より

■渡り鳥にも似た僕の生活である。月の半ばを大阪で暮らし、東京へ歸つて見ればやつぱり古巢の赤坂溜宅は懐かしい。曾て、晩春の雨に、柘榴の花の散るのを惜しんだが、早いことには、可愛い、納所坊主の頭みたいな奴がなつてゐるもう秋なのだ。

■街頭に號外の鈴が鳴るを、柱に身体をもたせかけつゝ聞く。痛いほど心が緊張する。筆や言葉では到底表現出來ぬ「心」を、我が身体を敵にぶつゝけることに依つて僅かに表現しようとする人々のつきつめた心持が、僕にもどうやら分つたような氣がする。福田狂二が長髪をしごきながら「大杉はよい同志を持つた！」と長嘆する。

■山田、前田の情熱の兒等五六人が、晝は讀書に耽り。夜は、旗をもつて街頭に立つて叫ぶ。「進め」が飛ぶように賣れるとの事だ。「讀書」と「宣傳」とに身も心もぶち込んでゐる此の人達の心を寶玉の如く僕は尊く思ふ。

■東京進め社の諸君を紹介してみよう。先づ山田靜見といふ快男兒が居る。北海道の監獄部屋を荒して荒して荒しまくつた剛鐵の砲丸のような男である。十一月號からその山田靜見の書いた「監獄部屋脱走記」を連載する。山田六郎は流れ行く雲に思はず「みすずかる信濃の國は……」と口ずさむ詩人だ。前田辰之助は、紀州熊の灘の荒浪育ち、けれども平生は淋しい温和な男だ。たまつて赤坂編輯室の机に倚つて、讀書執筆に沒頭してゐる將來おそろしい二十二才の青年。吉桑、丸山の兩名のことは知る人ぞ知る。桑原の引き倒しはかへつて不快だから此邊でよしておく。

■新進氣鋭石川準十郎、諏訪の自宅の書齋に立籠つて洋書の上に眼鏡を光らせてゐる。あのおとなし相な彼が一度び理論の究明に立ち向ふと、別人の樣な鋭さを帶びて來る。「急進」九月號で、北原龍雄サン所論を寸分の隙もなくまくし立てた手際は、全く近來の快事であつた。彼は、何等、閥の恩惠に依らず、親分の引き立てにもあづからず、獨立獨行で、社會主義論理に直進して來た愉快な論客の一人だ。彼の前途けだし大いに觀物であらう。

■村附運動に、「進め」同人の有志が加つてゐるといふので、「進め」をこわがる人々がゐる。が、「進め」は飽迄も無產大衆に社會主義を宣傳する機關であつて、閥を征伐する機關ではない。ここの所を、明らかにして置く。それでも、こわがる人々は、「進め」とは縁無き衆生で何とも仕方がない。

■今月號は、各方面から原稿が寄せられて頗る賑やかである。僕達には閥も黨も無いのだから、一つには、迷羊の我國民へのカルトのため、一つには、無力ながら奮鬪してゐる「進め」そのもののために若し、事情が許せたら、應援して貰ひたい。これは特に、情實などを眼中に置かぬ同志にお願ひ。（岡生）

月刊 未來と青年 （一部 五錢） 東京市外世田ヶ谷若林六九 未來と青年社

月刊 農民新聞 （一部 八錢） 鳥取縣米子町郊外大山麻前二本木 農民組合山陰聯合會

月刊 自由論攻 （一部三十錢菊判八十八頁） 東京市小石川區掃除用三十二

民衆運動 （一部 十錢 一年 一圓） 東京市外駒澤村七〇三 民衆運動社

月刊 戰闘文藝 （一部 二十五錢） 東京市牛込區市ヶ谷山伏町一ノ九 戰闘文藝社

鑛山勞働者 全日本鑛夫總聯合機關紙 （一部 二十錢） 東京府上駒込染井八 振替東京五〇五八五番

半月刊 勞働者新聞 日本勞働總同盟關西同盟會機關紙 （一部 五錢） 大阪市北區西野田江成町 勞働者新聞社

月刊 土地と自由 日本農民組合機關紙 （一部 十錢） 大阪市北區西野田江成町 日本農民組合本部

月刊 文藝戰線 （一部 二十錢） 東京市四谷新宿二ノ三十一 文藝戰線社

行政長藏著 百姓は何故貧乏するか 日本農民組合本部

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平岩巖氏編

高尾平兵衛と其遺稿

一部十五錢（送料二錢）

既刊 繪葉書及寫眞版數葉

近日出版

平岩巖氏編

同志高尾平兵衛

菊判 二百頁

神近市子、中村還一、鈴木厚寄稿遺稿全部記念寫眞

一部一圓

東京市外幡ケ谷一〇七一

戰線同盟

「民衆運動パンフレット」

吉田一氏著

レーニン會見記

三十二頁 一部十錢（税二錢）

松本一氏著

フエビヤン協會と其綱領

四六版四十六頁 美本 定價十五錢

發行所 東京市外世田ケ谷太子堂二八六

民衆運動社

科目 政治・經濟・宗教・法制・社會學・勞働問題

日本勞働學院生徒募集

九月一日第二學期開講 月謝壹圓五十錢

東京下谷竹町二九（市電西町下車 省電上野驛下車）

第二回公開大講演會

○十月二十五日（土曜）午後六時より
○芝公園協調会館大講堂にて
○聽講料、金貳拾錢

◆講師

山崎今朝彌
神近市子
新井格
秋田雨雀
小川未明
松下芳男
小泉鐵
石川三四郎
江口渙
布施辰治
山崎一雄
菊池寛
村松正俊
奥むめお
片山哲

◆演題未定

但野次自由、演說下手の大確信を有する者が野次り倒さるゝ迄大喝采を捷ふ。

日本フエビアン協會主催

喜谷實母散

主治効能

▼血の道
▼產前產後
▼子宮病
▼氣ふさぎ
▼こしけ
▼雜產流產
▼白帶赤帶
▼逆上頭痛
▼足腰冷込
▼經期腹痛
▼下腹痛み
▼月經不順

定價及送料

壹貼 貳拾錢 二錢
參貼 五拾五錢 二錢
七貼 一圓卅錢 二錢
十四貼 二圓卅錢 六錢
卅二貼 五圓 十三錢

東京市京橋區中橋大鋸町
本舖 喜谷市郎右衛門

金
銀
白金

德力本店
東京市神田區松田町

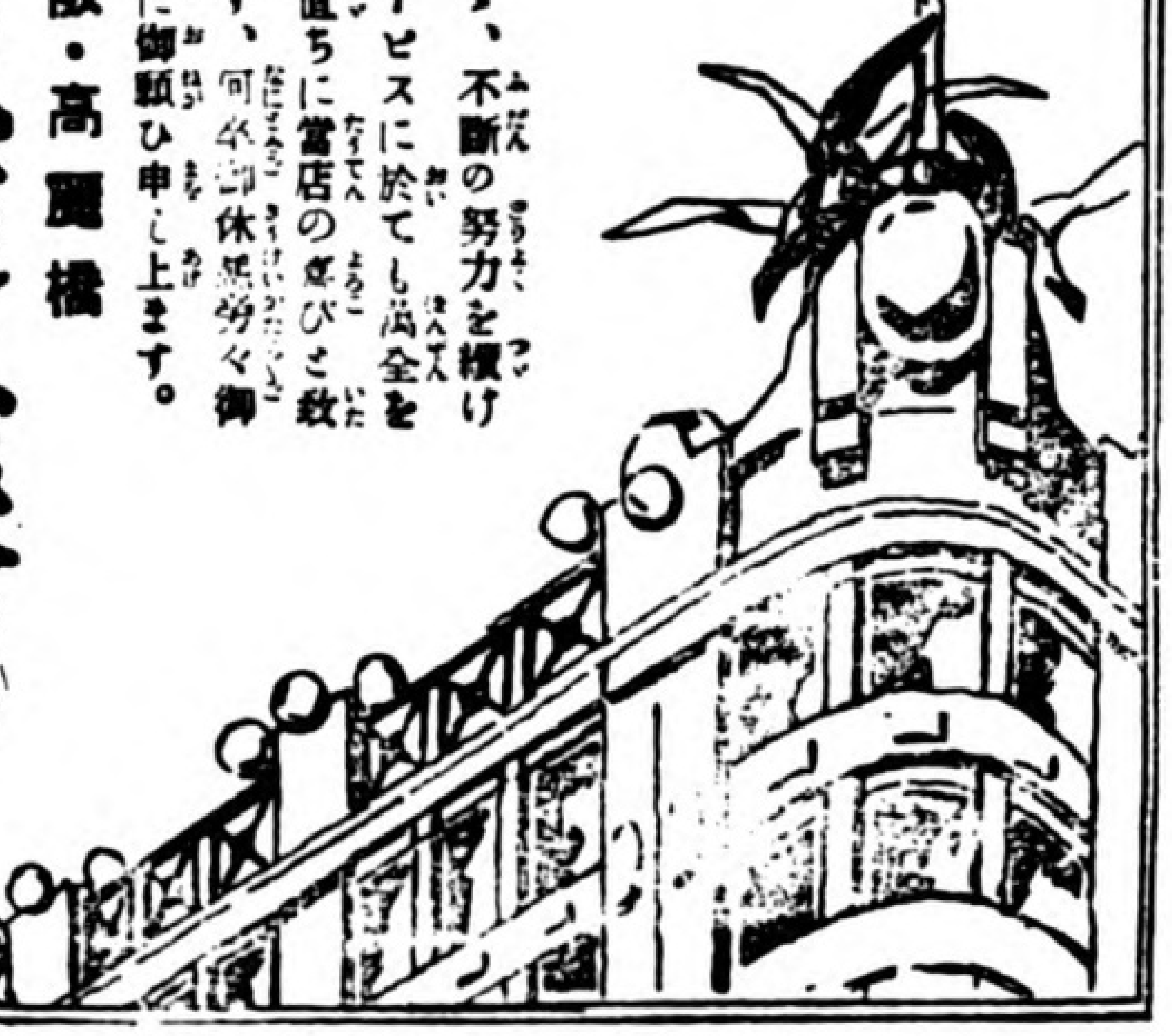
不斷の努力を捧げて

絶えず品質を精選し、價格は低廉に、趣味と實用を標語として、常に社會の趨勢に鑑み、時世に適應して改善に改善を重ねつゝ、不斷の努力を續けてをります當店は、店內の諸施設、店員のサービスに於ても萬全を期し、只管華客各位の御滿足と御愉快を以て直ちに當店の喜びと致してをります、何卒御休憩旁々御光來の程偏に御願ひ申し上げます。

地方よりの御註文は通信販賣部宛に願ひます、尚その御手引として御便利なる當店發行の「三越カレンダー」御申越次第御送附申し上ます。

大阪・高麗橋

三越呉服店



進め社顧問

赤坂表町一丁目一番地（辨慶橋前）

辨護士
辨理士
法學士

久保山武雄

電話高輪五〇五四番

新社會主義 雜誌

古勞働問題 パンフレット

迅速丁寧にお需に應じます

「進め」大賣捌所

大阪市北區江成町二九三

友愛社

大島貞一

仁は人の安宅なり

義は人の正路なり

The Su-su-me. -Socialists Monthly.-
Head office Yebie Nishinoda Osaka

□大阪心齋橋□

大丸呉服店

◈京都四條……◈神戸元町
◈東京驛前……

良品廉賣

松坂屋

いとう呉服店

◈大阪市日本橋三丁目
◈名古屋市中區榮町

サン瓦斯入電球

電氣が少しで
丈夫で明るい
良いものは
結局お徳

大阪市外大仁七〇

大阪電球株式會社

電話土佐堀長 三一六〇 三一六一 三八二一 三八二二

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可 ■毎月一回 ■定價一部十錢（税五厘） 發行所 大阪市外鷺洲町海老江一〇七八 進め社
大正十三年十月一日發行 ■一日發行 半年六十錢 一年一圓（税共） 發行兼編輯印刷人 福田狂二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN